

第2回総合計画審議会 審議内容

2024年12月24日

資料構成(目次)

【報告事項】

- 1. 第1回審議会以降の進捗状況
- 2. 基礎調査、アンケート、ワークショップ
 - 2.1 愛西市の人口・世帯の現状、特徴
 - 2.2 将来人口推計
 - 2.3 愛西市に関わる多様な人々からの意見（アンケート、ワークショップ）
 - 2.4 近年の愛西市を取り巻く社会潮流

【審議事項】

- 3. 計画策定の方針
- 4. 基本構想について

1.第1回審議会以降の進捗状況

報告事項

1.第1回審議会以降の進捗状況

基礎調査、各種アンケート調査、ワークショップを実施により市の現状や将来課題を分析

■ 基礎調査

- 現状分析:愛西市の人口・世帯の現状、特徴（他自治体との比較）
- 将来人口推計

■ アンケート

- 18歳以上市民アンケート（送付2,500名、回答891名、回答率35.6%）
- 小学生アンケート（送付486名、回答376名、回答率77.4%）
- 中学生アンケート（送付504名、回答391名、回答率77.6%）
- 交流人口・関係人口アンケート
（回答800名 ※ネットリサーチ会社の全国Webモニター16,868名から過去10年以内の来訪者を800名抽出）

■ ワークショップ

- 高校生ワークショップ（第1回 11/10、第2回 12/19）
- 市民ワークショップ（第1回 11/23、第2回 12/14、第3回 12/21）

2.基礎調査、アンケート、ワークショップ

2.1 愛西市の人口・世帯の現状、特徴

報告事項

2.1 愛西市の人口・世帯の現状、特徴

(人口):人口減少の進行と高齢化率の高い状況が続いている

- 愛西市の人口は2000年の約6.6万人をピークに減少に転じ、2020年には約6.1万人。(P6)
- 総人口に占める0～14歳の割合は11.3%となり、75歳以上の16.8%よりも低い。(P10)
- 65歳以上の高齢者人口は31.7%で高齢化の状況にあり、近隣の自治体と比べても、高齢化率の高い状況。(P10)
- 生産年齢人口(15～64歳)の割合は57.1%で、近隣の市(津島市、弥富市、あま市)と比べても最も低い。(P10)

(世帯):近隣市町村と比べて子どものいる世帯の割合や3世代世帯の割合が高い

- 夫婦と子供の世帯の割合が32.2%と最も高く、次いで夫婦のみの世帯が22.2%、単独世帯が19.8%。
近隣の市(津島市、弥富市、あま市)と比べると、3世代世帯の割合が11.1%と最も高い。(P14)
- 17歳までの子どものいる世帯の割合は約23.3%となり、全世帯の2割程度。(P16)
- 65歳以上の高齢者がいる世帯の割合は55.4%であり、子どものいる世帯の割合の2.3倍以上。近隣の自治体と比べると、高齢者のいる世帯の割合が最も高い。津島市や弥富市、あま市と比べると、約10～15ポイント上回っている。(P17)

(勤務地):近隣市町村と比べても居住人口に対して市外で働く人々の割合が高い、ベッドタウン

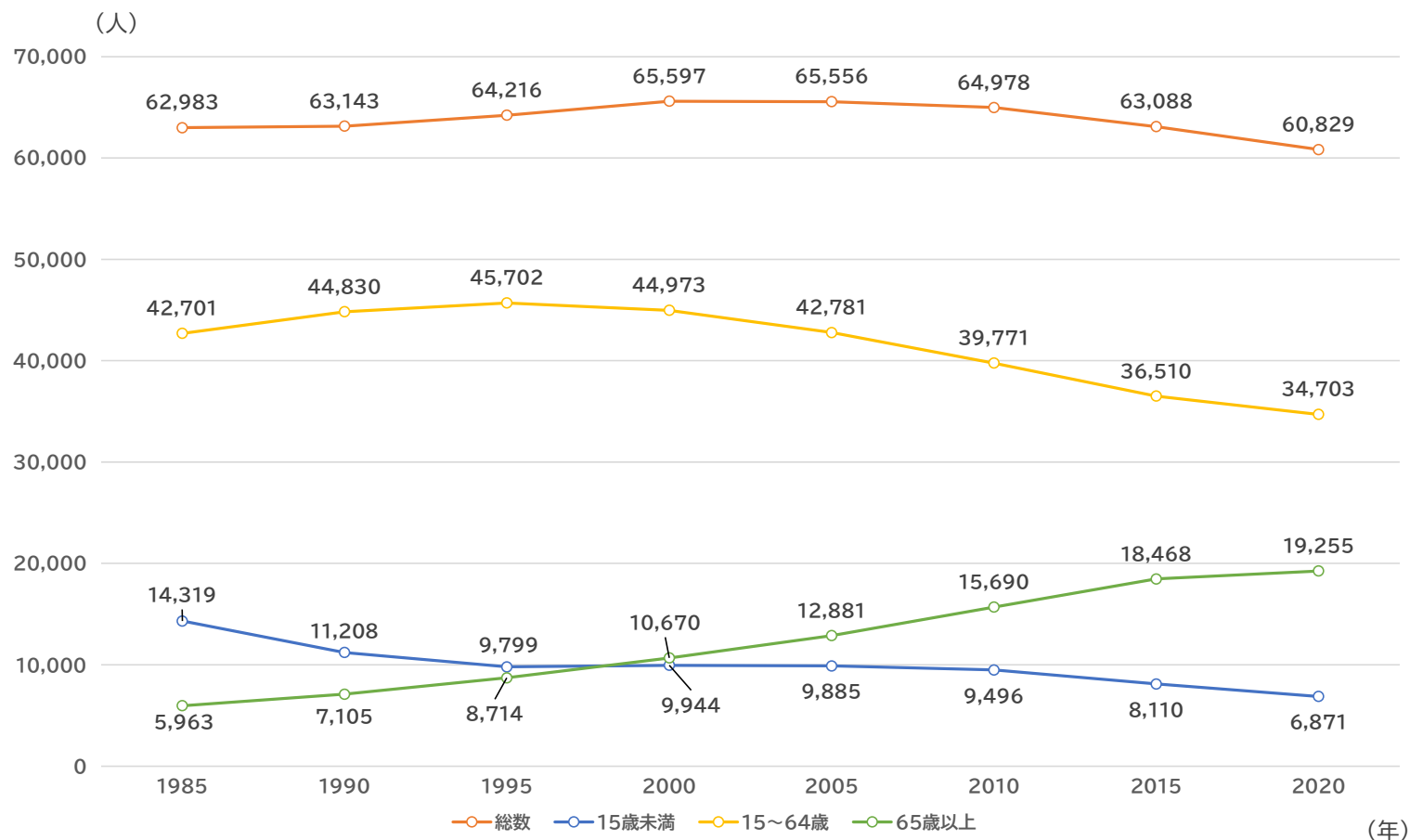
- 昼夜間人口比率(市の常住人口に対する市内で働く人口の比率)は男性76.6%、女性85.0%。男女ともに近隣の市と比べても低い。(P19)

(人口増減 | 出生・死亡/転出入):自然減の進行に対し、転入数の拡大が求められる

- 自然減(死亡)による人口減少数が拡大。反面、出生数は年々減少。合計特殊出生率は全国平均をやや下回る。(P21,23)
- 直近は転入者数と転出者数が概ね拮抗した状況にあり、人口に対する社会増減の影響は小さい。(P21,P22)
- ただし直近2年間(2022年、2023年)は名古屋市からの転入超過の状況が続く。転入超過数のうち多く(58人中、43人)が30代。(P25)

【愛西市の年齢3区分別人口推移】

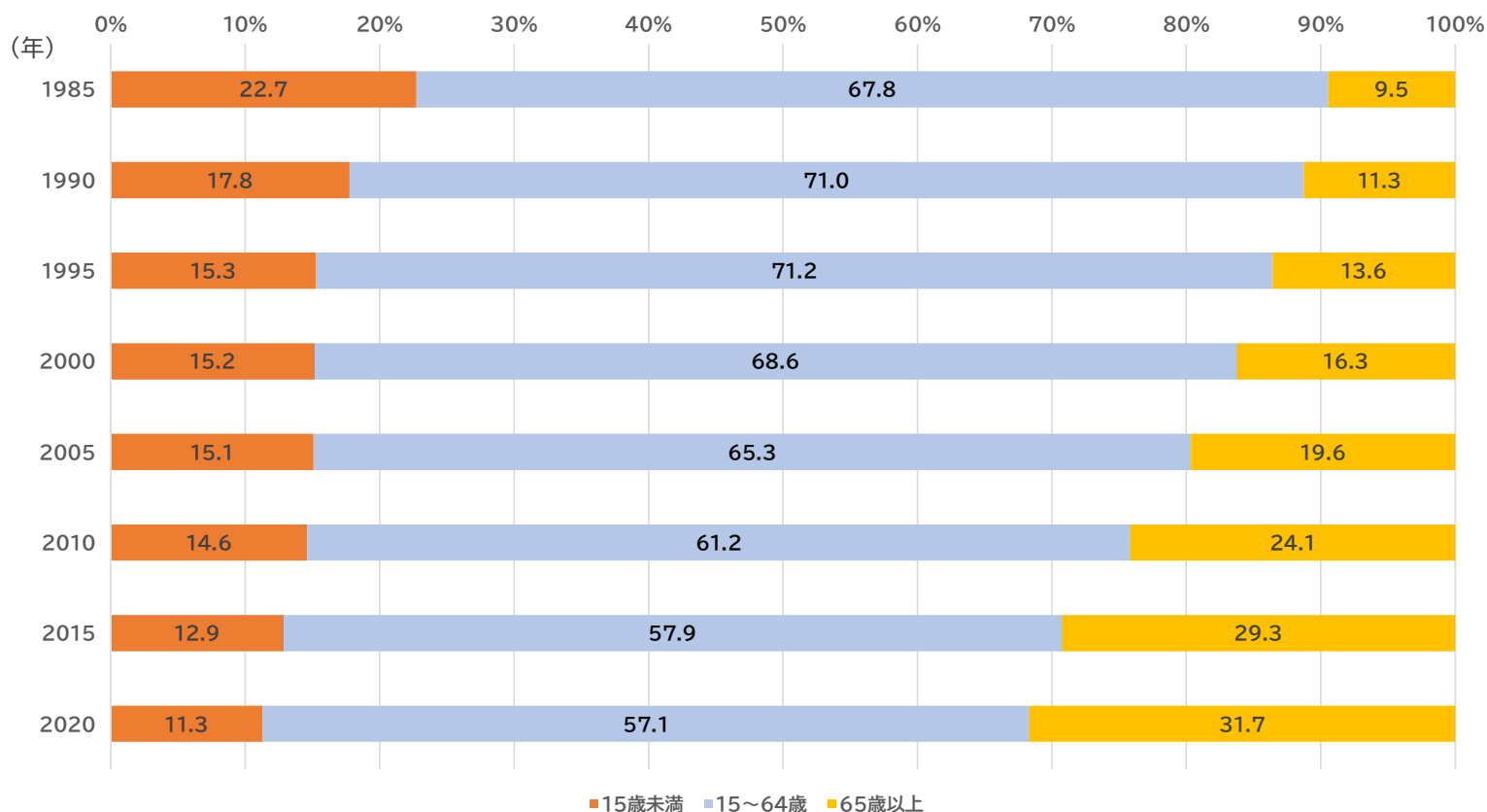
- 愛西市の人口は2000年の65,597人をピークに減少に転じ、2020年には60,829人となっている。
- 15～64歳人口(生産年齢人口)は1995年の45,702人をピークに減少に転じ、2020年には34,703人となっている。



出典:総務省「国勢調査」 ※2015年、2020年は不詳補完値。

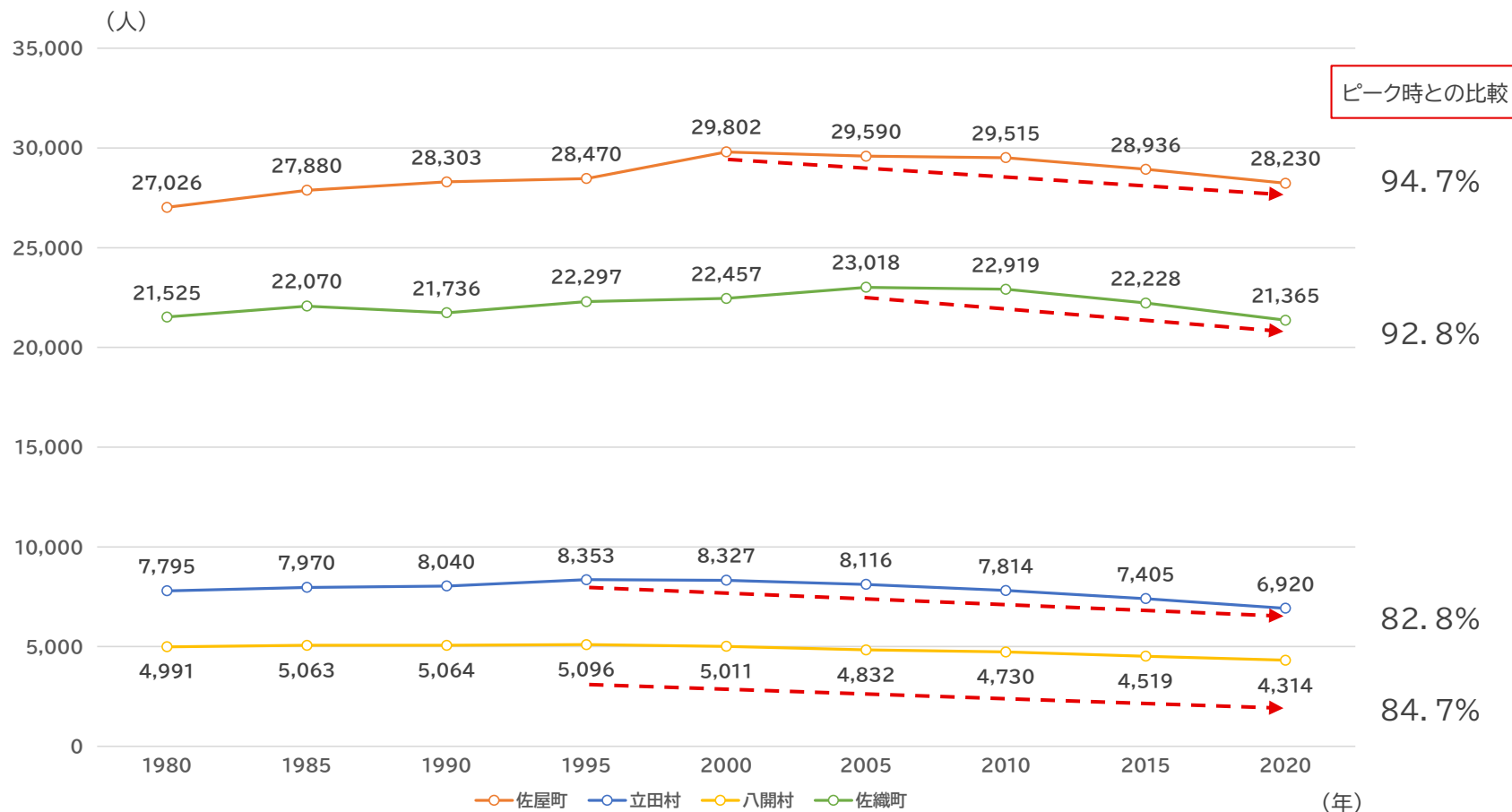
【愛西市の年齢3区分別人口割合の推移】

- 愛西市の年齢区分別人口割合をみると、15～64歳(生産年齢人口)は、1995年の71.2%をピークに減少傾向にあり、2020年では57.1%となっている。
- 15歳未満(年少人口)は、1995年までに急減し、2005年まではほぼ横ばい傾向であったが、その後は減少傾向にあり、2020年では11.3%となっている。
- 65歳以上(老年人口)は継続して増加しており、2020年では31.7%となっている。



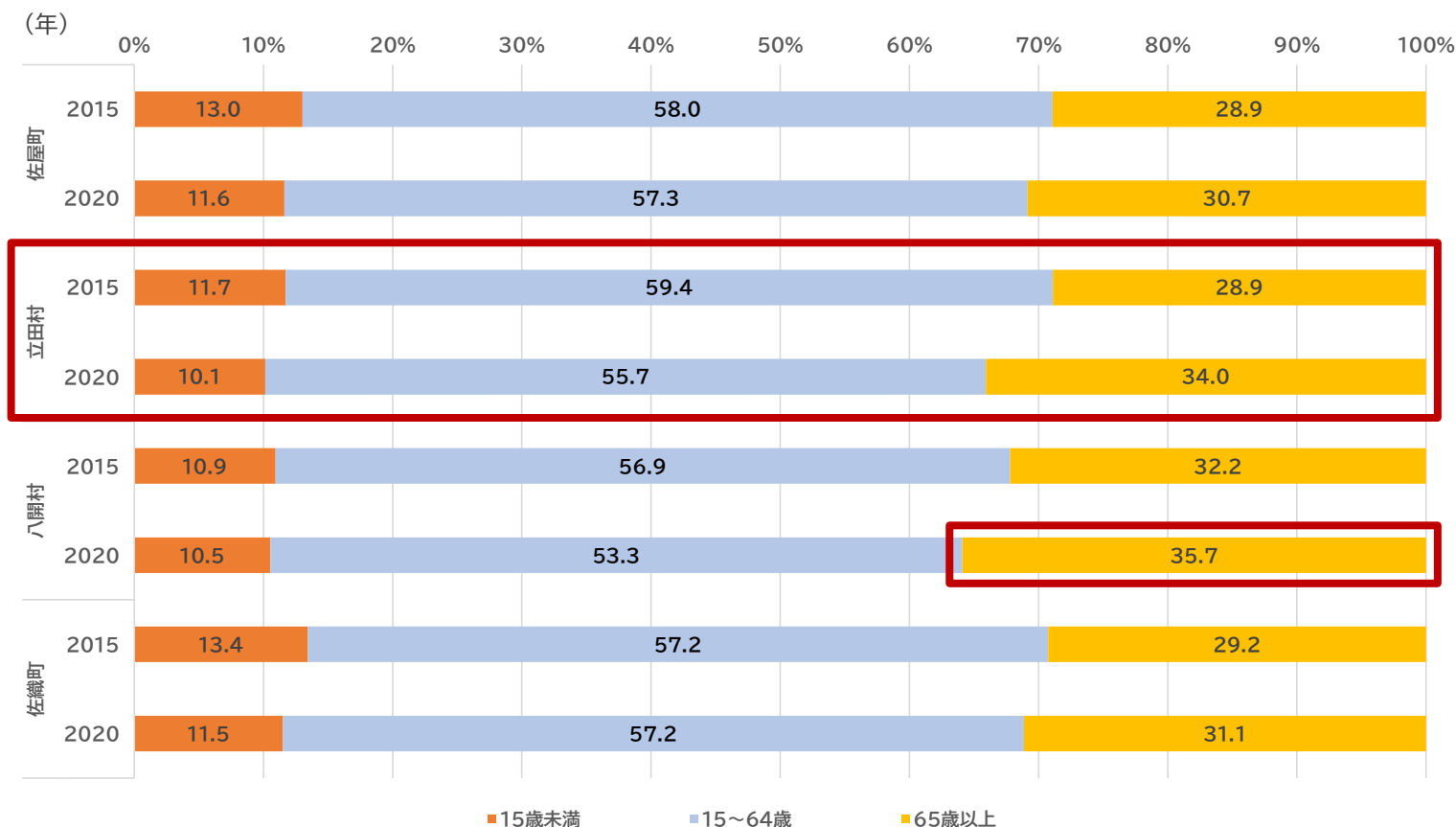
【地区別人口推移】

- 地区別(旧町村単位)人口の推移をみると、旧立田村、旧八開村では1995年を、旧佐屋町では2000年を、旧佐織町では2005年をそれぞれピークに減少している。



【地区別3区分別人口割合の推移】

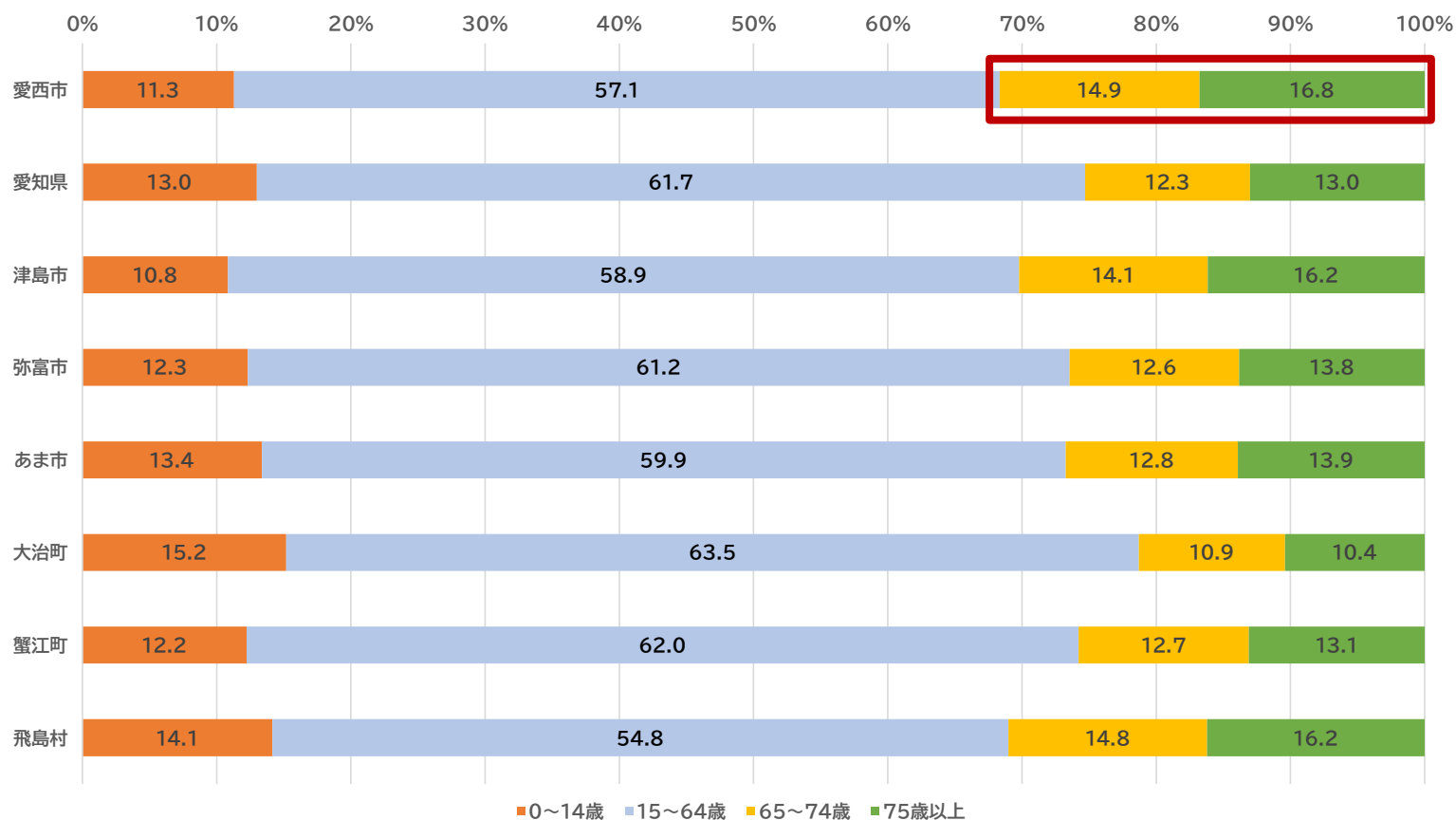
- 地区別3区分別人口割合の推移をみると、旧立田村の高齢化が著しく進んでいることがうかがえる(2015年と比べて、5ポイント以上増加)。
- 2020年では、旧八開村の高齢化率が35.7%で、最も高い。



【年齢4区分別人口構成比(2020年)】

※近隣市町村比較

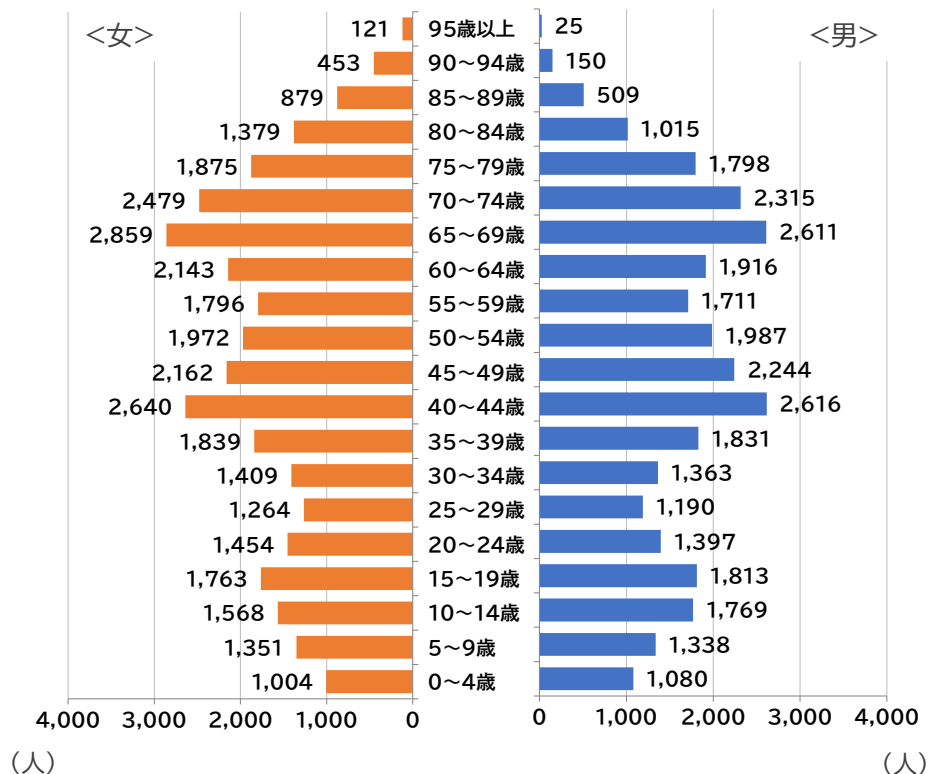
- 総人口に占める0～14歳の割合は11.3%となり、75歳以上の16.8%よりも低い。また、65歳以上の高齢者人口は31.7%で高齢化の状況にあり、近隣の自治体と比べても、高齢化率の高い状況がうかがえる。
- また、生産年齢人口(15～64歳)の割合は57.1%で、近隣の市(津島市、弥富市、あま市)と比べても最も低い。



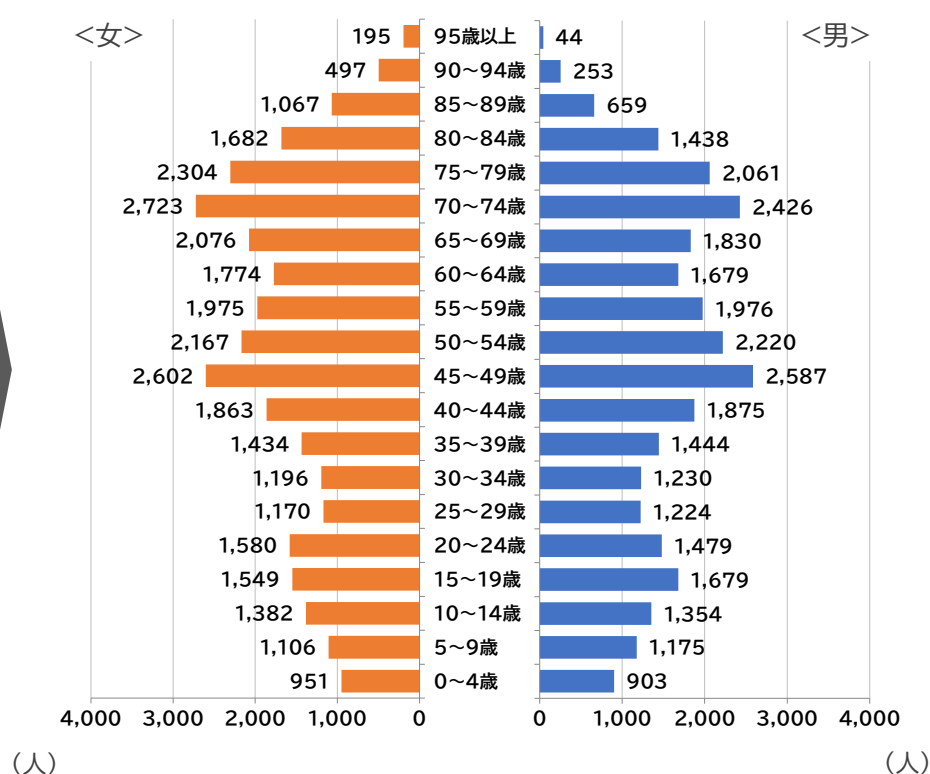
【愛西市の人口ピラミッド(2015年、2020年)】

- 愛西市の人口ピラミッド(2020年)は男女により若干傾向が異なり、男性は団塊ジュニアと呼ばれる世代の多くを含む45～49歳人口が最も多く、女性は団塊世代が含まれる70～74歳人口が最も多い。
- 2015年では0～4歳人口が男女ともに1,000人以上であったが、2020年では男女ともに1,000人を下回っている。

【2015年】

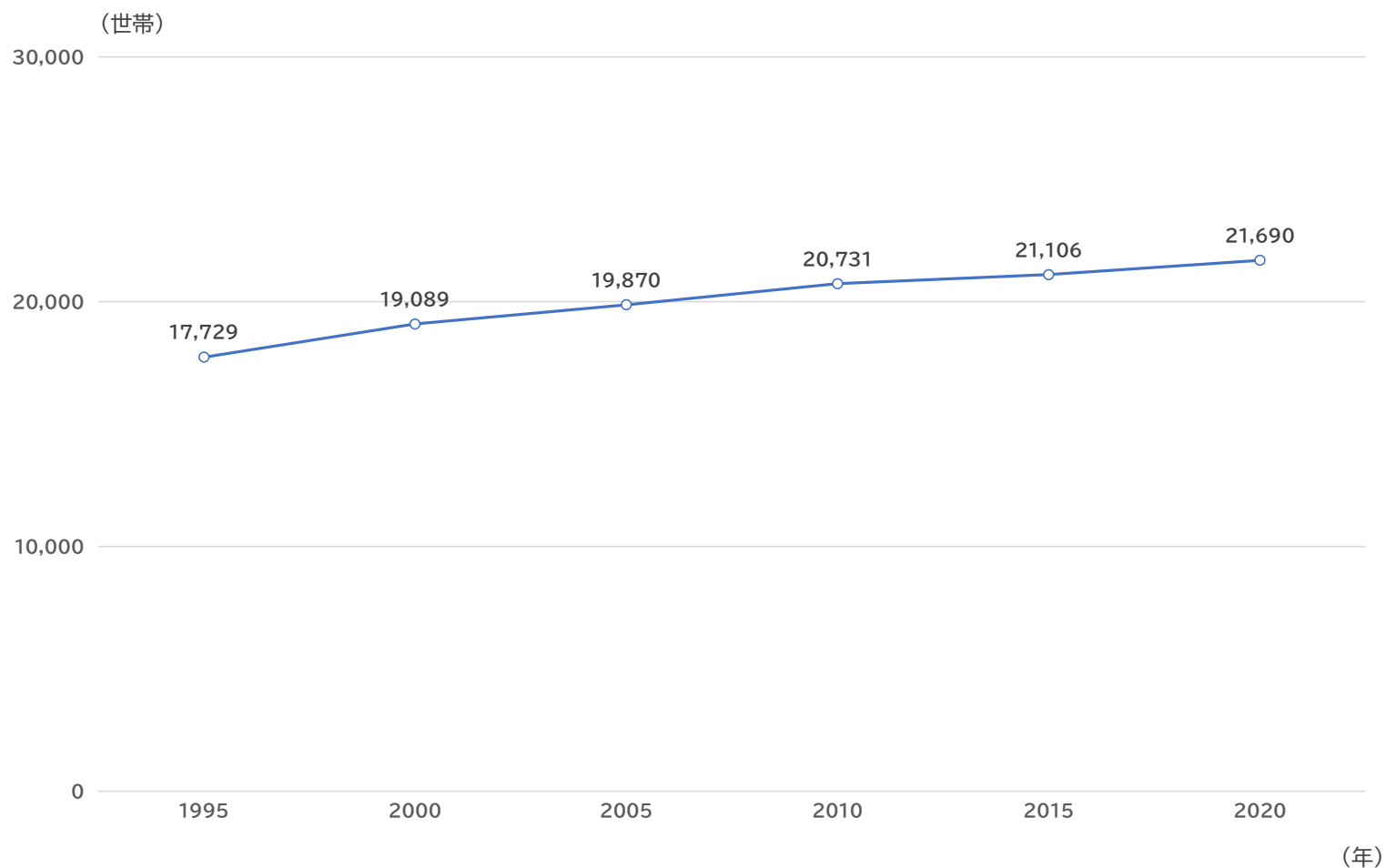


【2020年】



【世帯数の推移(一般世帯)】

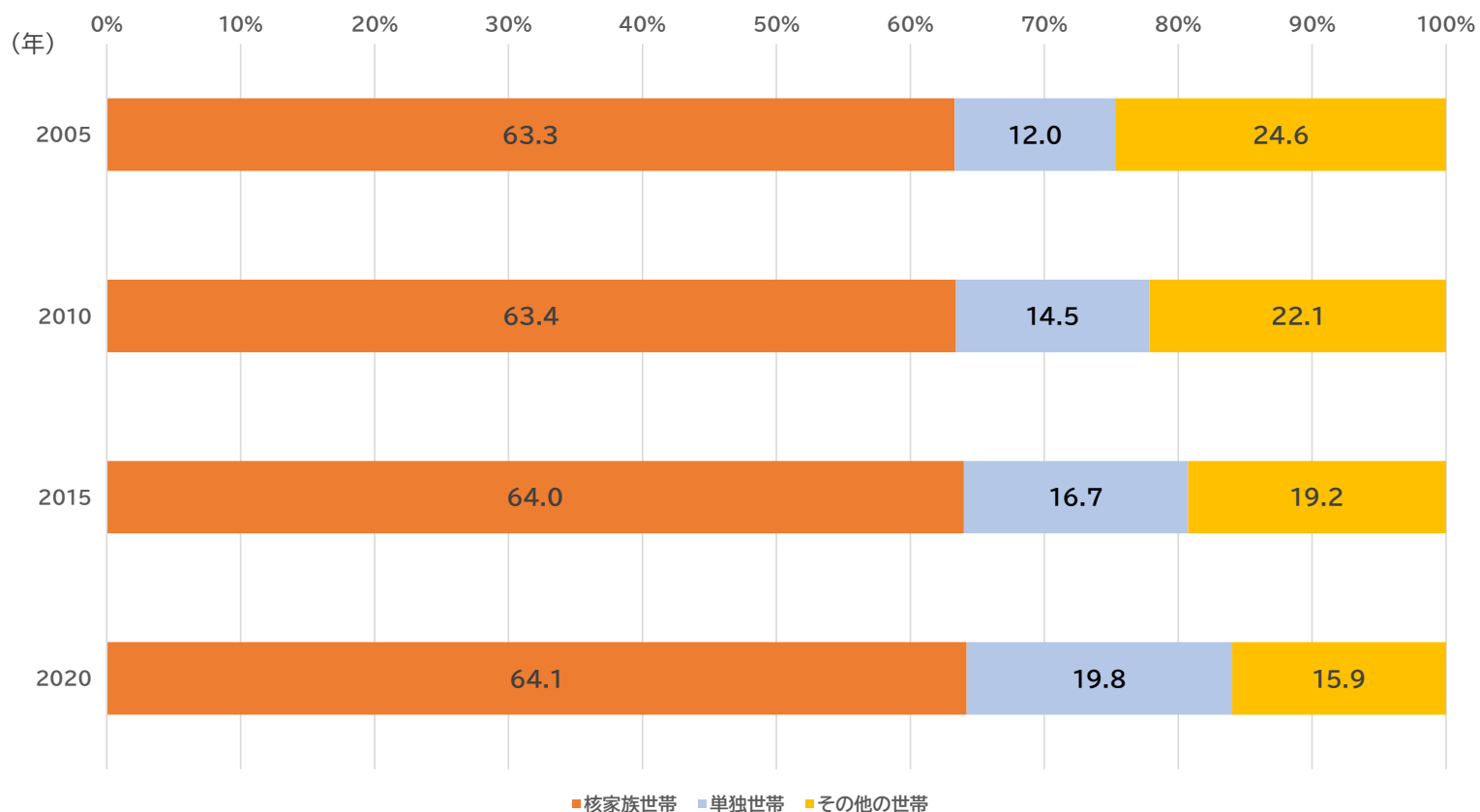
- 世帯数については右肩上がりで増加を続けており、2020年には21,690世帯となっている。



出典:総務省「国勢調査」

【世帯構成の推移(一般世帯)】

- 核家族世帯、単独世帯の割合が高まっていることから、世帯の小規模化が進んでいることがうかがえる。
- 2020年では単独世帯の割合が約20%となっている。

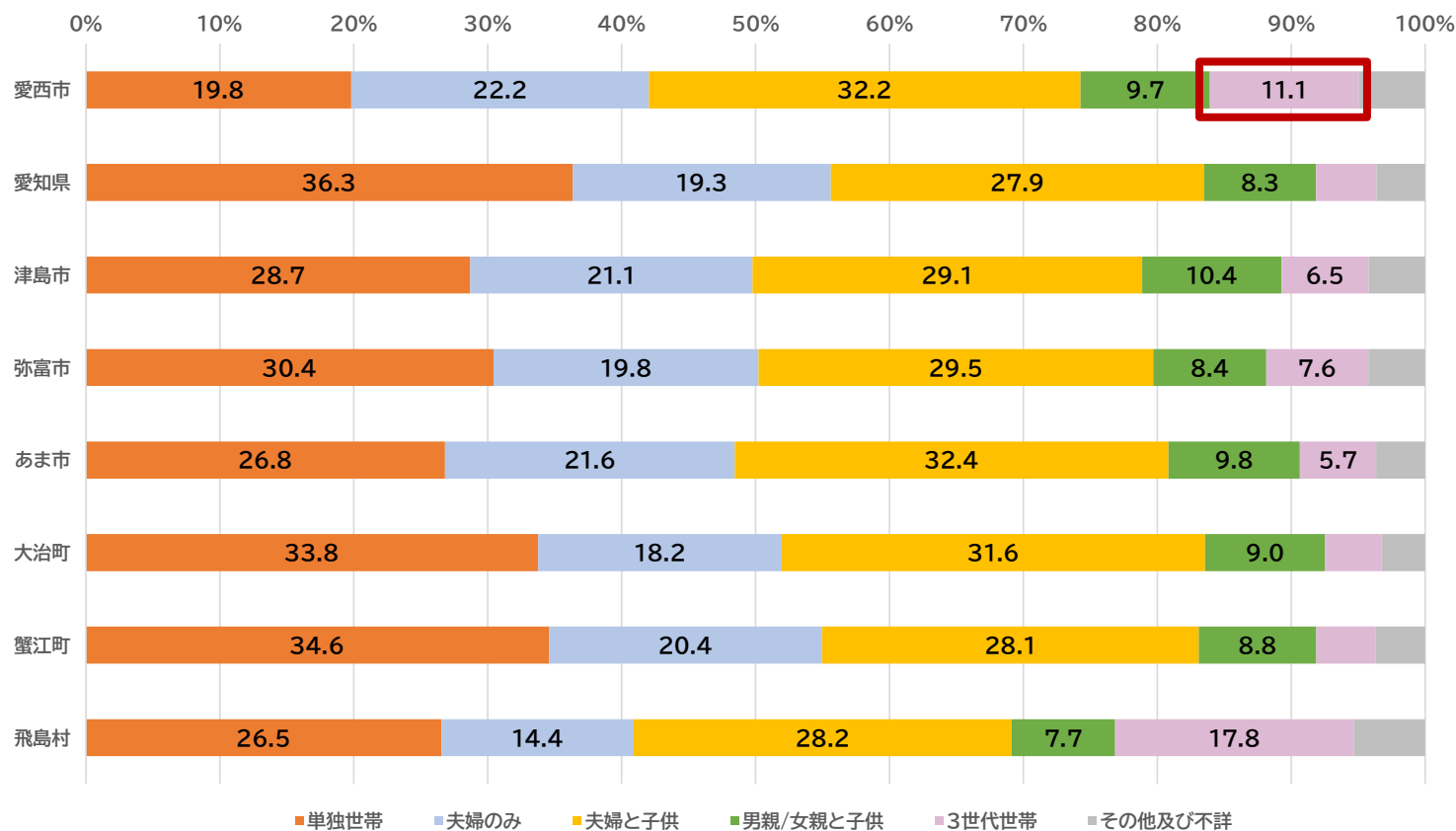


出典:総務省「国勢調査」

【世帯の家族類型別構成比】

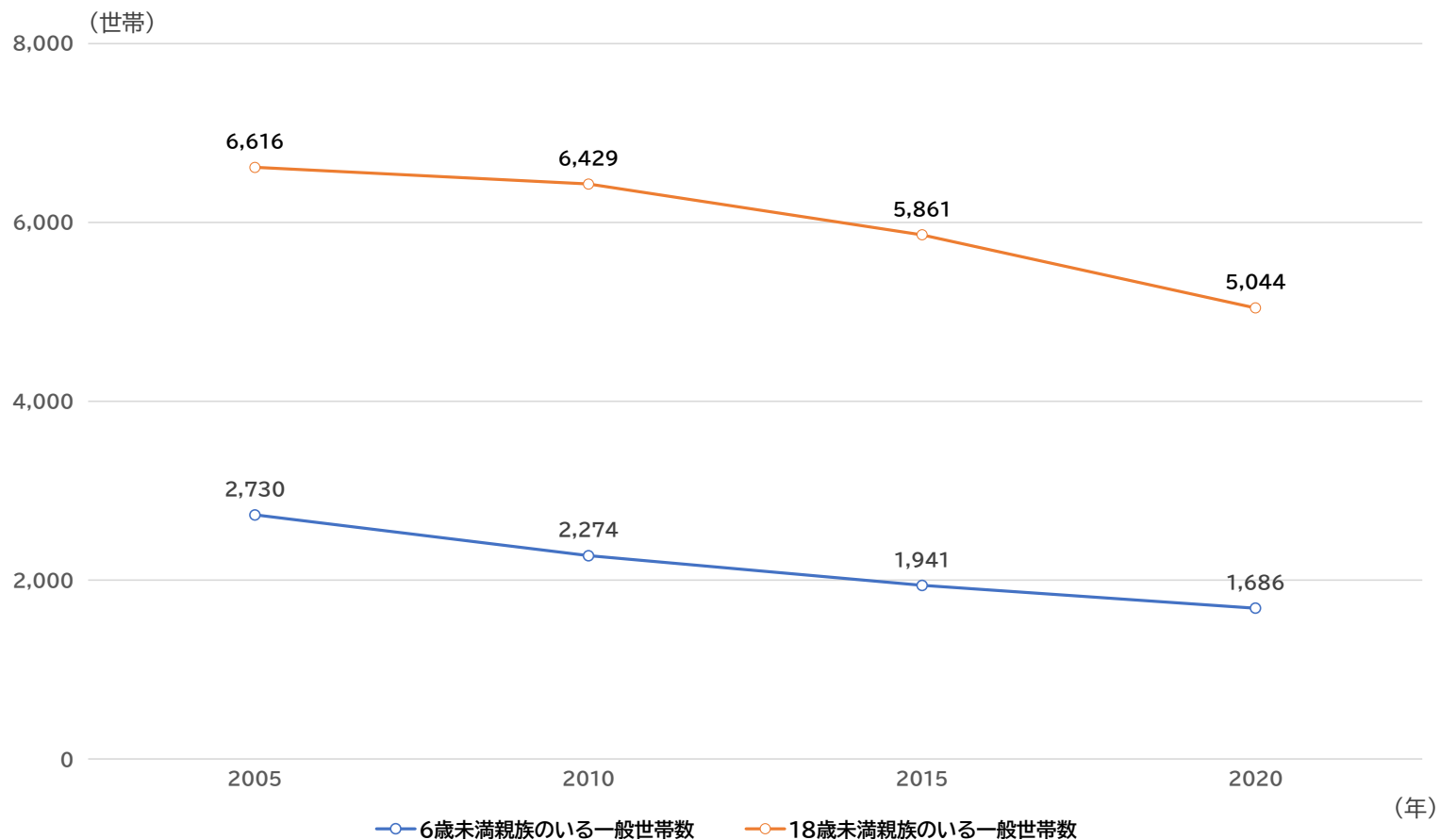
※近隣市町村比較

- 愛西市では、夫婦と子供の世帯の割合が32.2%と最も高く、次いで夫婦のみの世帯が22.2%、単独世帯が19.8%となっている。
- 近隣の市(津島市、弥富市、あま市)と比べると、3世代世帯の割合が11.1%と最も高い。



【子どものいる世帯の推移】

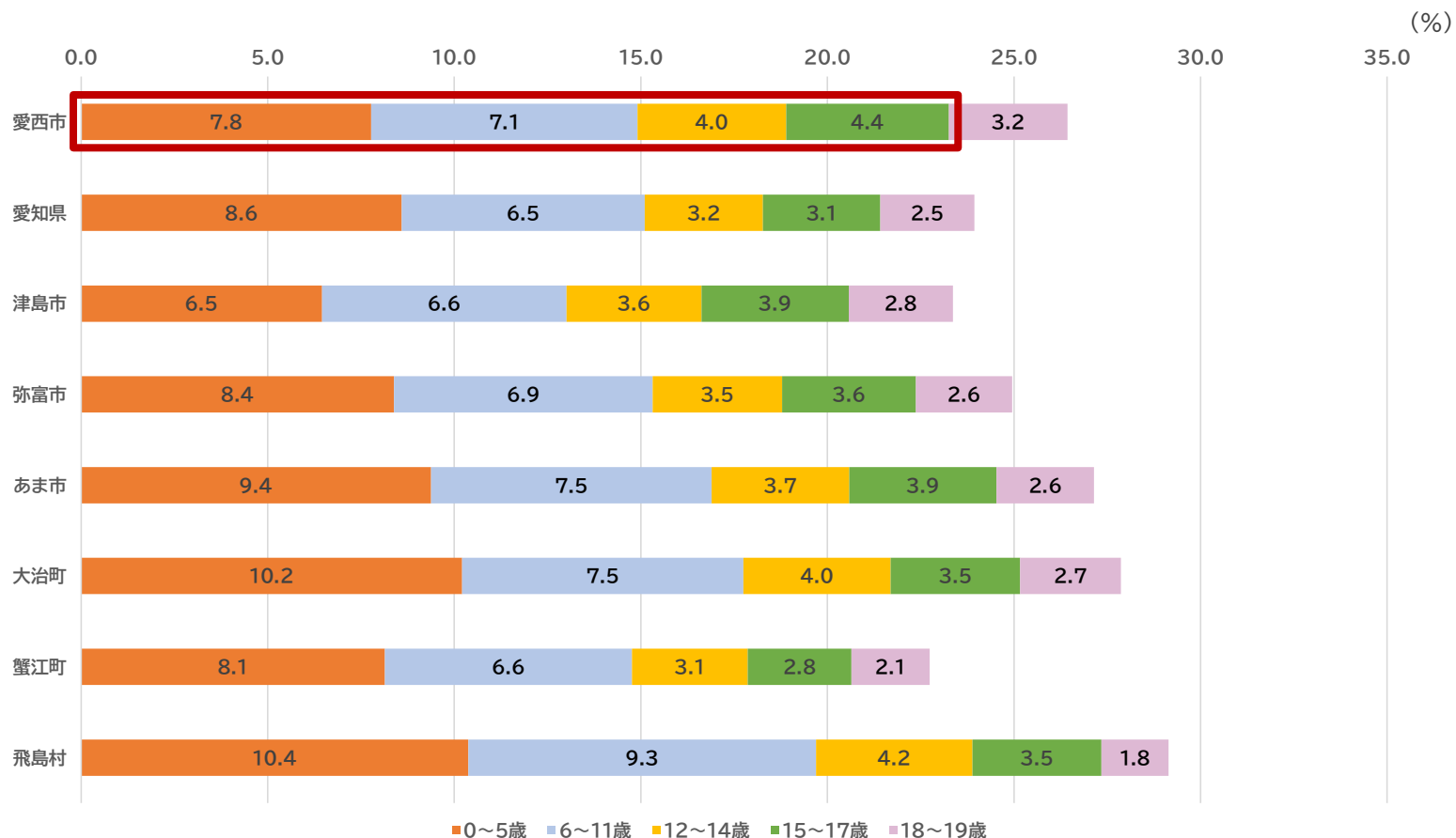
- 6歳未満親族のいる一般世帯数、18歳未満親族のいる一般世帯数はともに減少傾向となっており、2020年ではそれぞれ、1,686世帯、5,044世帯となっている。



【世帯の子ども年齢別構成比(子どものいる世帯の割合)】

※近隣市町村比較

- 愛西市で、17歳までの子どものいる世帯の割合は約23.3%となり、全世帯の2割程度となっている。

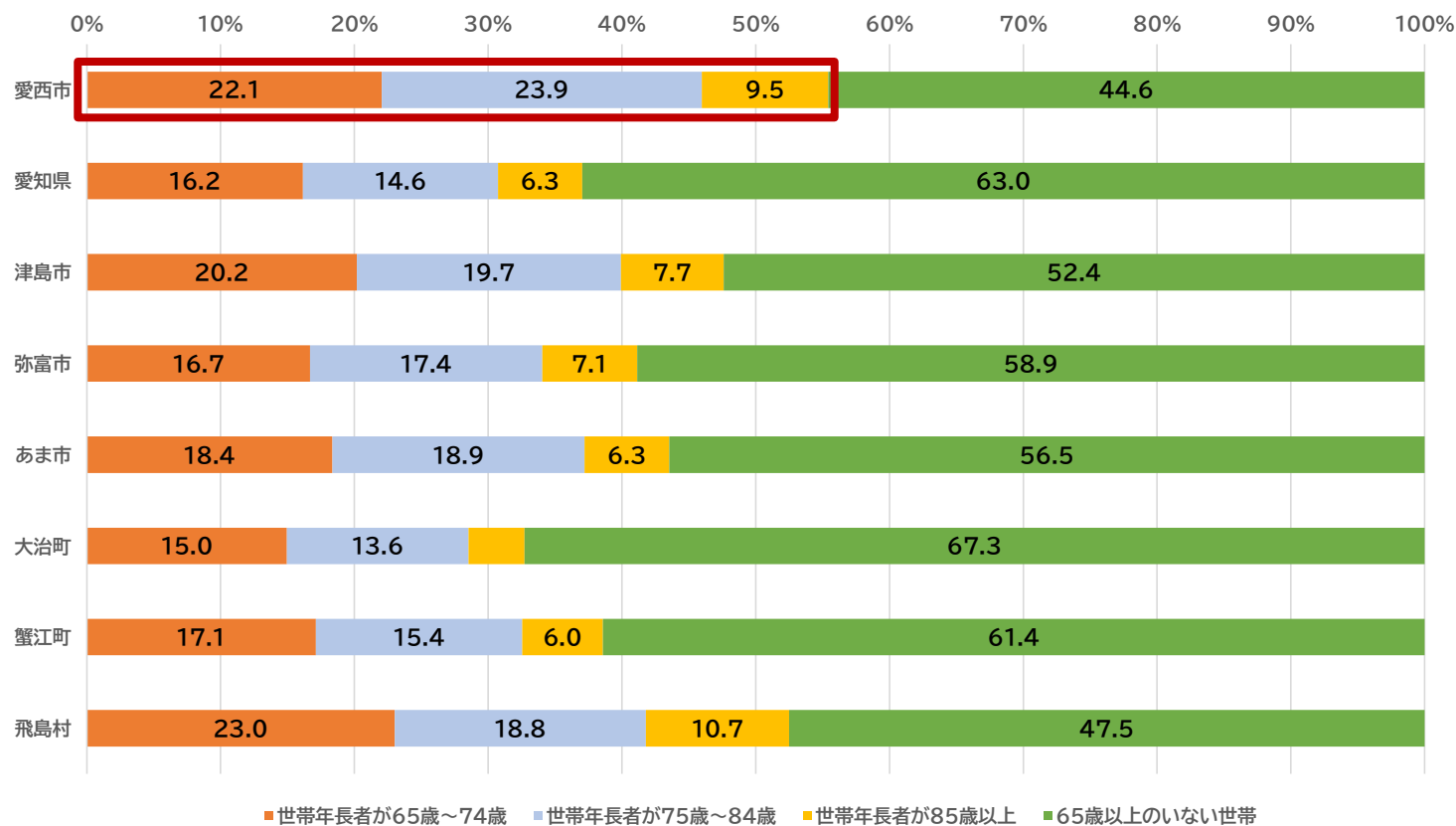


出典:総務省「令和2年国勢調査」

【世帯の高齢者年齢別構成比(高齢者のいる世帯の割合)】

※近隣市町村比較

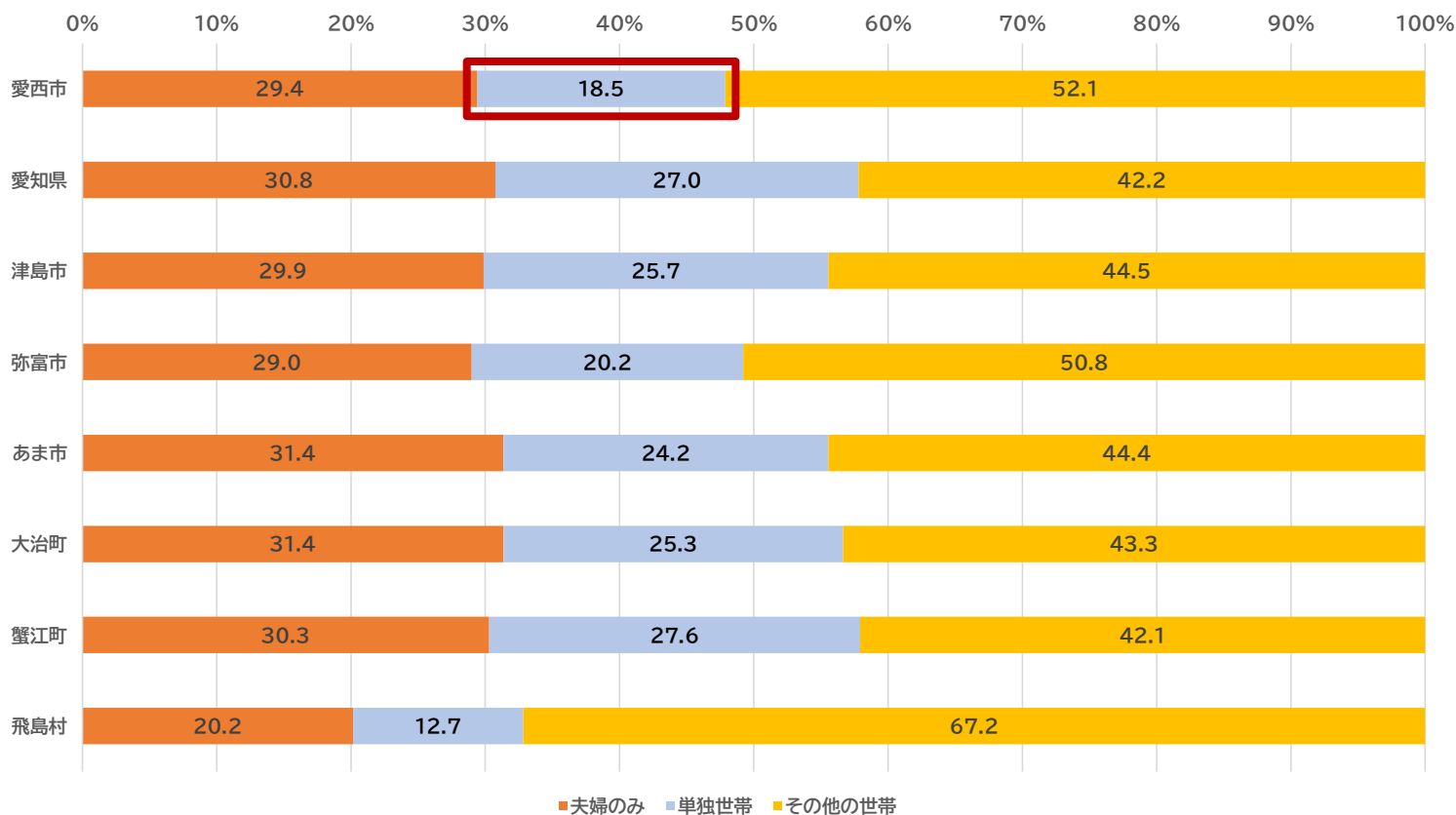
- 世帯に65歳以上の高齢者がいる割合は約55.4%であり、子どものいる世帯の割合の2.3倍以上となる。
- 近隣の自治体と比べると、高齢者のいる世帯の割合が最も高い。津島市や弥富市、あま市と比べると、約10～15ポイント上回っている。



【65歳以上の高齢者のいる世帯の家族類型別構成比】

※近隣市町村比較

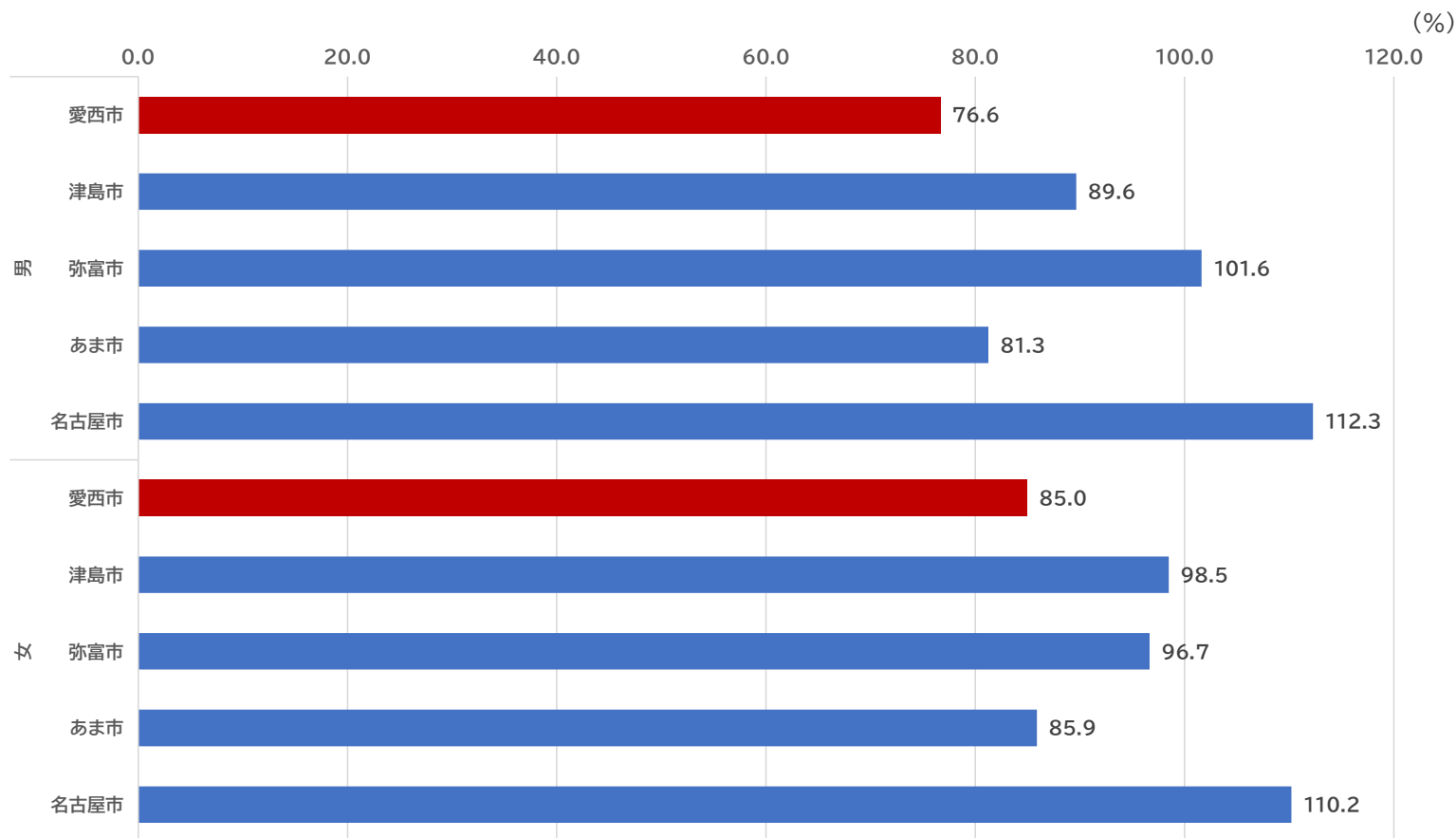
- 65歳以上の高齢者のいる世帯のうち、夫婦のみは29.4%、単独世帯は18.5%となっている。
- 飛島村を除く近隣の自治体と比べると、単独世帯(一人暮らし)の割合は低い。



【昼夜間人口比率(人口ベース)】

※近隣市比較

- 愛西市の昼夜間人口比率(常住人口当たりの昼間人口の割合)は男性が76.6%、女性が85.0%となっており、男女ともに近隣の市と比べて低い。



【愛西市の通勤・通学人口（From-To）】

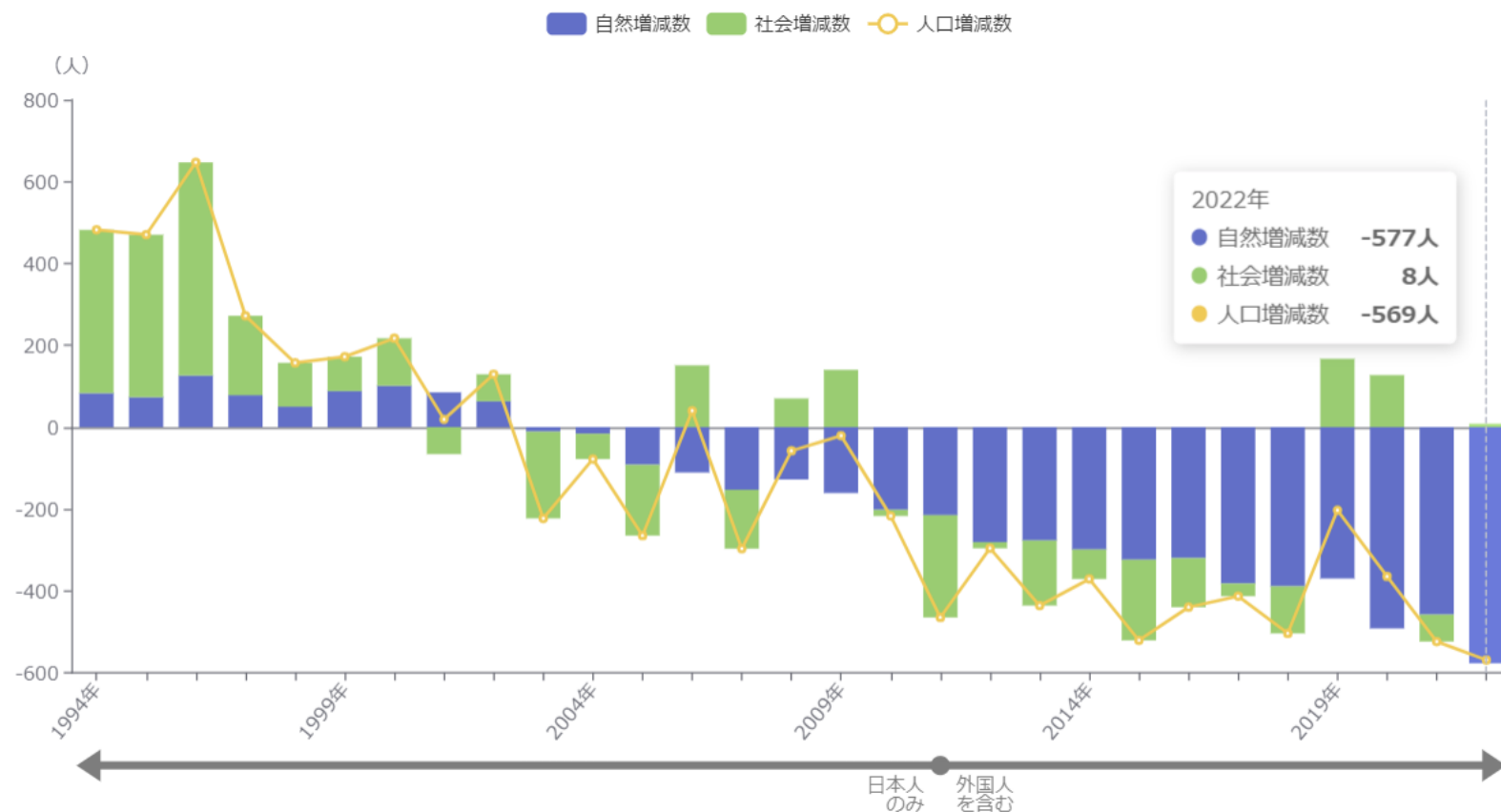
- 主な通勤・通学元は津島市(2,651人)、名古屋市(1,255人)、稲沢市(1,244人)、弥富市(1,109人)、あま市(900人)となっている。
- 通勤・通学については、名古屋市および尾張中西部・海部地区の2都市圏で概ね完結していることがわかる。



【人口増減（自然増減・社会増減の推移）】

出典：地域経済分析システム(RESAS)

- 愛西市では、自然減（出生数と死亡数の差）による人口減少数が拡大している。



【出典】

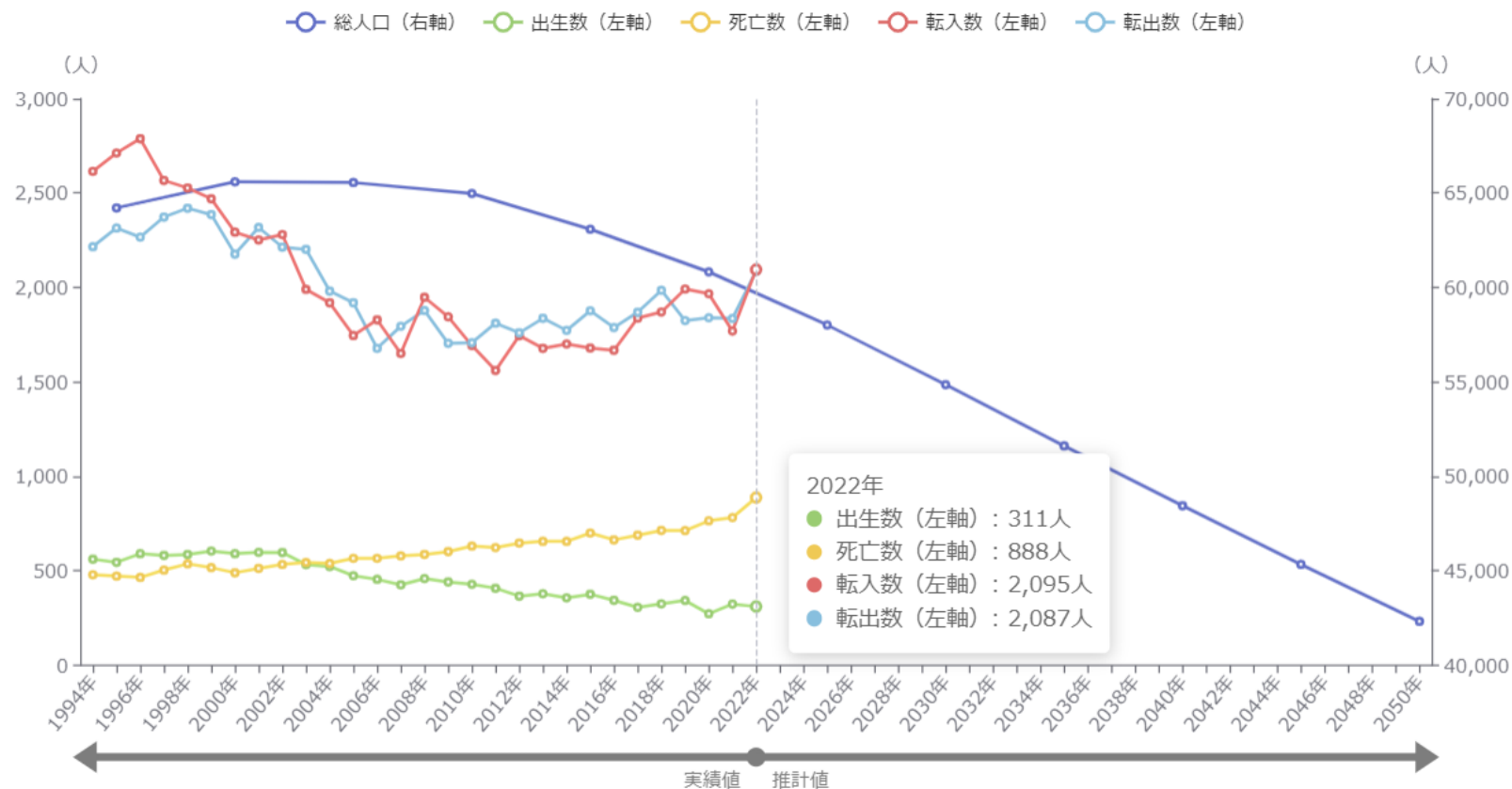
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】

2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

【人口増減の内訳（出生数・死亡数/転入数・転出数）】

出典：地域経済分析システム(RESAS)



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

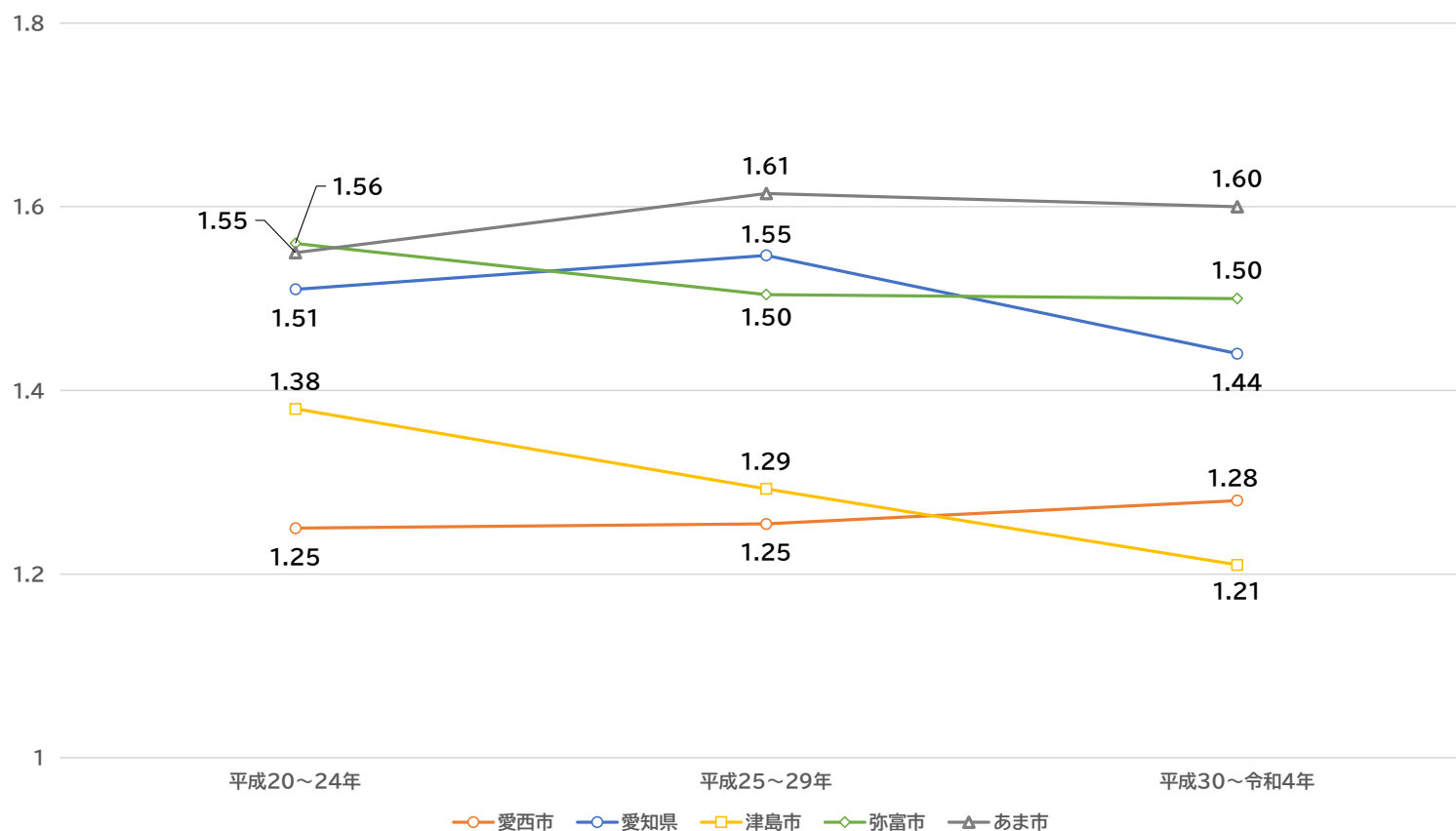
【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

【合計特殊出生率】

※近隣市比較

- 愛西市の合計特殊出生率は、愛知県全体や弥富市、あま市と比べると低い値であるが、平成20年以降、増加しており、平成30～令和4年は1.28となっている。



【都市別の転出入超過数(1年あたり)】

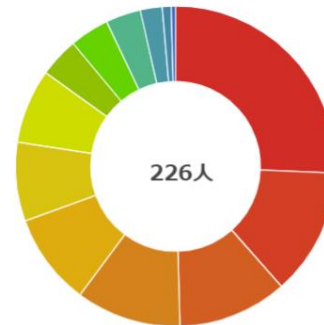
出典:地域経済分析システム(RESAS)

- 直近2年間(2022年、2023年)は名古屋市からの転入超過の状況が続いている。
- 2023年の名古屋市に対する転入超過数のうち、74%(58人中、43人)が30代である
- 反対に、20代は転出超過の自治体が多く、名古屋市に対する転出超過数が最も多い

※次頁参照

転入超過数内訳

総数 総数

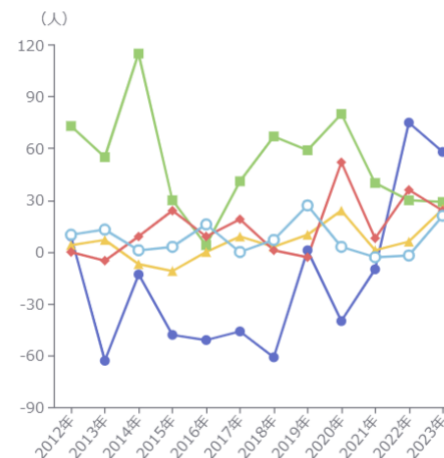


- 1位 愛知県名古屋市 58人 (25.66%)
- 2位 愛知県津島市 29人 (12.83%)
- 3位 愛知県清須市 25人 (11.06%)
- 4位 愛知県弥富市 24人 (10.62%)
- 5位 三重県桑名市 21人 (9.29%)
- 6位 愛知県蟹江町 18人 (7.96%)
- 7位 愛知県あま市 17人 (7.52%)

転入超過数上位地域

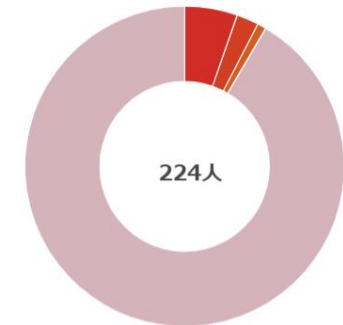
総数 総数

● 名古屋市 ● 津島市 ★ 清須市 ◆ 弥富市 ○ 桑名市



転出超過数内訳

総数 総数

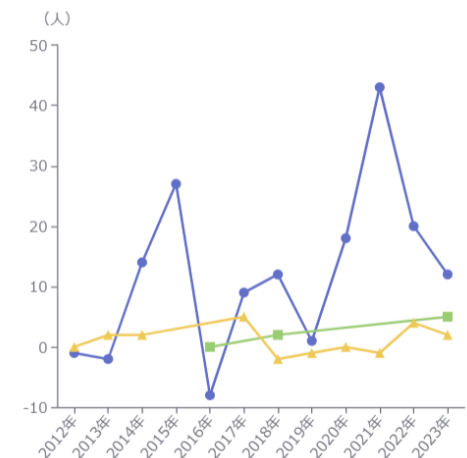


- 1位 愛知県一宮市 12人 (5.36%)
- 2位 大阪府大阪市 5人 (2.23%)
- 3位 愛知県北名古屋市 2人 (0.89%)
- その他 205人 (91.52%)

転出超過数上位地域

総数 総数

● 一宮市 ● 大阪市 ★ 北名古屋市



【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

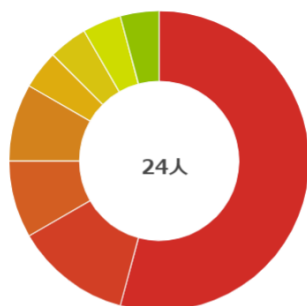
【注記】
 熊本市については、2012年4月1日に政令指定都市となったため、2012年のデータにおける熊本市に属する区のデータについては、4月から12月までの9か月分となる。
 相模原市については2010年4月1日に政令指定都市となったため、2010年のデータにおける相模原市に属する区のデータについては、4月から12月までの9か月分となる。
 都道府県単位の移動総数は、市区町村単位の移動情報を足し上げて集計しているため、転入情報がある場合は、実際に把握できている移動数より少なくなる可能性がある。
 「住民基本台帳移動報告」における移動者数は、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）の規定により、市町村に届出等のあった転入者の日本国内の移動に伴う情報を集計したものである（国外からの転入者及び国外への転出者は含まれていない）。
 また、本図は、性別・年齢階級別に移動前の住所地別転入者数・移動後の住所地別転出者数が整理された公表集計表を用いて作成しているため、2017年までは日本人のみ、2018年からは外国人を含む移動者数を表示している。

【20代・30代の都市別転出入超過数(1年あたり)】

出典:地域経済分析システム(RESAS)

20代の転出入内訳

転入超過数内訳

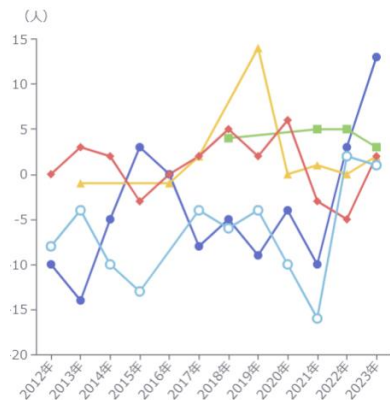


- 1位 愛知県弥富市 13人 (54.17%)
- 2位 岐阜県羽島市 3人 (12.50%)
- 3位 三重県四日市市 2人 (8.33%)
- 4位 三重県桑名市 2人 (8.33%)
- 5位 愛知県津島市 1人 (4.17%)

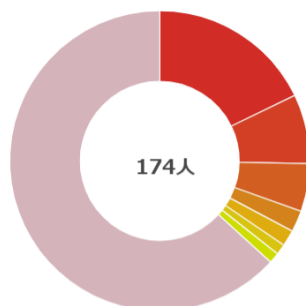
転入超過数上位地域

総数 20歳台

● 弥富市 ● 羽島市 ● 四日市市 ● 桑名市 ● 春日井市



転出超過数内訳

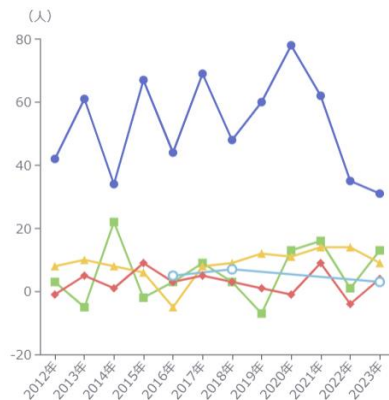


- 1位 愛知県名古屋市中区 31人 (17.82%)
- 2位 愛知県稲沢市 13人 (7.47%)
- 3位 愛知県一宮市 9人 (5.17%)
- 4位 愛知県大治町 4人 (2.30%)
- 5位 大阪府大阪市 3人 (1.72%)

転出超過数上位地域

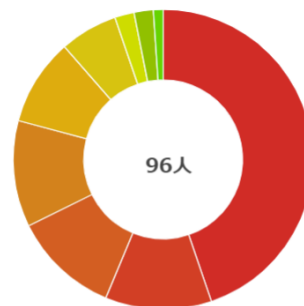
総数 20歳台

● 名古屋市中区 ● 稲沢市 ● 一宮市 ● 大治町 ● 大阪市



30代の転出入内訳

転入超過数内訳

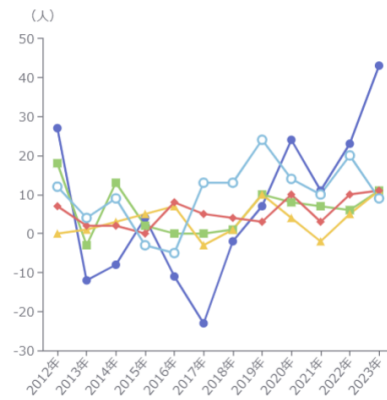


- 1位 愛知県名古屋市中区 43人 (44.79%)
- 2位 愛知県あま市 11人 (11.46%)
- 3位 愛知県清須市 11人 (11.46%)
- 4位 三重県桑名市 11人 (11.46%)
- 5位 愛知県蟹江町 9人 (9.38%)

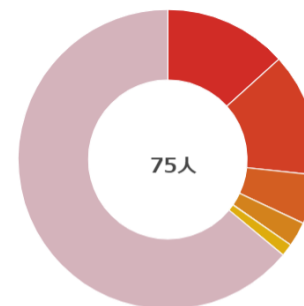
転入超過数上位地域

総数 30歳台

● 名古屋市中区 ● あま市 ● 桑名市 ● 清須市 ● 蟹江町



転出超過数内訳

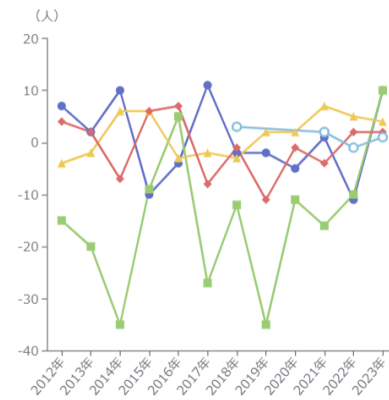


- 1位 愛知県稲沢市 10人 (13.33%)
- 2位 愛知県津島市 10人 (13.33%)
- 3位 愛知県一宮市 4人 (5.33%)
- 4位 愛知県大治町 2人 (2.67%)
- 5位 岐阜県羽島市 1人 (1.33%)

転出超過数上位地域

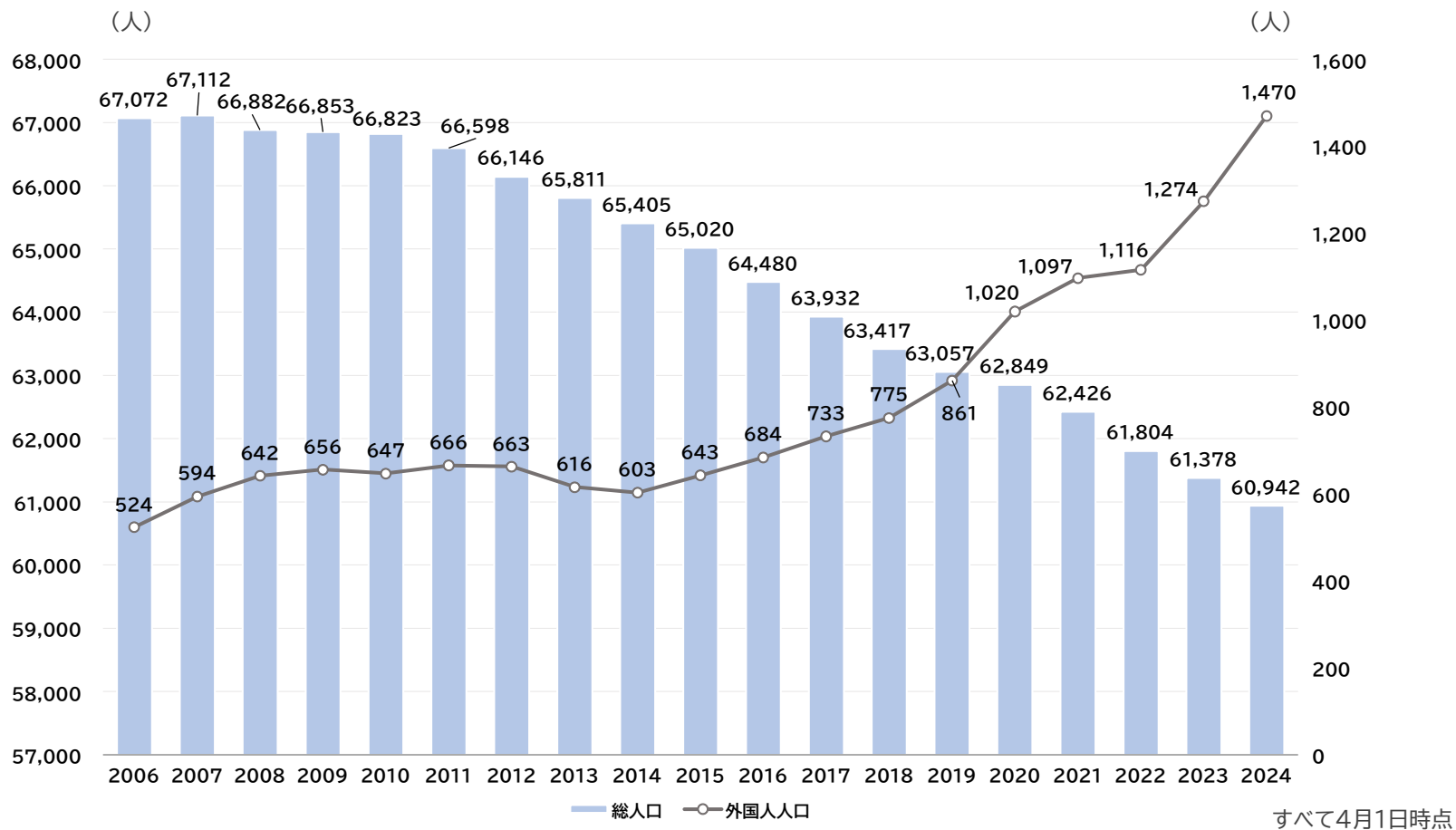
総数 30歳台

● 稲沢市 ● 津島市 ● 一宮市 ● 大治町 ● 羽島市



【愛西市の外国人人口の推移】

- 愛西市の外国人人口は、2014年以降継続して増加傾向にあり、2024年4月には1,470人となっている。



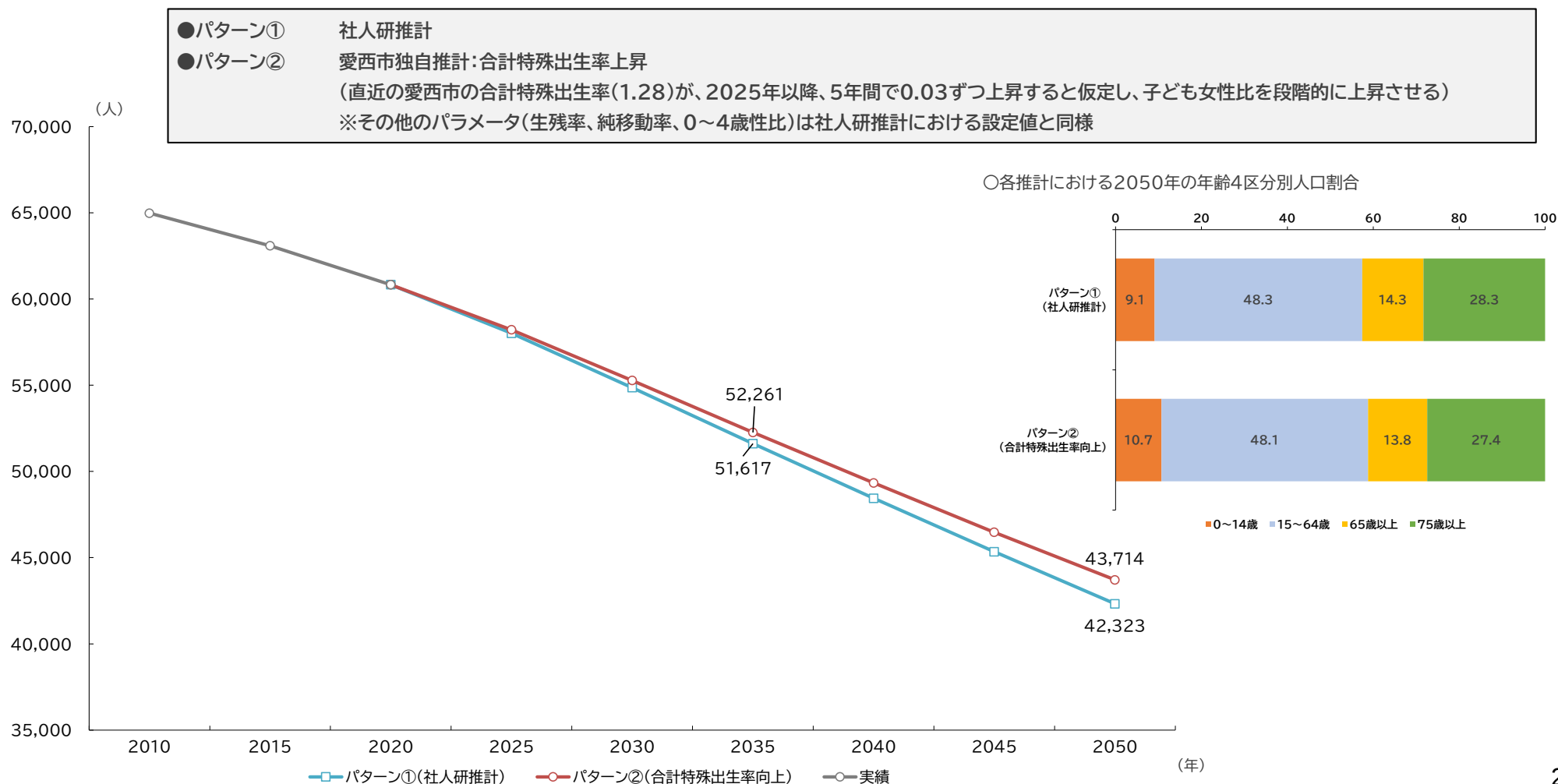
出典:愛西市住民基本台帳

2.基礎調査、アンケート、ワークショップ

2.2 将来人口推計

【将来人口推計結果】

- 国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来人口推計(社人研推計値)によると、愛西市の人口は、2035年には51,617人、2050年には42,323人まで減少します。
- これに対し、平成25年から令和4年にかけての愛西市の傾向をもとに合計特殊出生率が段階的に上昇すると仮定した市の独自推計値では、2035年には52,261人(社人研推計値に対し、+644人)、2050年には43,714人(社人研推計値に対し、+1,391人)となっています。



2.基礎調査、アンケート、ワークショップ

2.3 愛西市に関わる多様な人々からの意見(アンケート、ワークショップ)

報告事項

2.3 愛西市に関わる多様な人々からの意見(アンケート、ワークショップ)

新たな計画を策定のため、市民の多様な意見(交流人口・関係人口を含む)を収集

■ 18歳以上市民アンケート (回答:891名)

- 住みやすさ、施策分野別の満足度・重要度等の評価
- 愛西市が進む方向性として、特に力を入れた方がいいと思うもの
- 自由意見 等

■ 小中学生アンケート (回答:小学生376名、中学生391名)

- 大人になったときの愛西市に求めること 等

■ 交流人口・関係人口アンケート (回答:800名 ※過去10年以内愛西市来訪者)

- 来訪時の目的や実際に体験したこと(地域資源)、愛西市の魅力
- 愛西市との関わり方、移住先としての評価 等

■ 高校生ワークショップ (第1回:12名参加、第2回:19名参加)

- 第1回:10年後のありたい姿とは？
- 第2回:ありたい姿を実現するための共創プロジェクトとは？

■ 市民ワークショップ (第1回:14名参加、第2回:12名参加、第3回:10名参加)

- 第1回:10年後のありたい姿とは？
- 第2回:農業・環境の魅力を活かした住みやすいまちに向けて、まちづくり目標を考える
- 第3回:愛西市の地域資源を活かした交流・地域活性化に向けて、まちづくり目標を考える

市民アンケート(18歳以上、小学生、中学生)

18歳以上市民アンケートの回答者状況

【18歳以上市民アンケートより】

※前回調査(令和3年)との比較

前回と比べて全体の回答者数は減少したが、50代の増加を除き、各属性の構成比率に大幅な変化はない(±5%以内)

問1 あなたの性別

	前回件数	今回件数	(前回)%	(今回)%
男性	482	395	44.8%	44.3%
女性	574	491	53.4%	55.1%
その他	1	3	0.1%	0.3%
不明・無回答	18	2	1.7%	0.2%
N (% [^] -ス)	1,075	891	100.0%	100.0%

問2 あなたの年齢【歳】

	前回件数	今回件数	(前回)%	(今回)%
20歳代以下	130	105	12.1%	11.8%
30歳代	181	111	16.8%	12.5%
40歳代	196	177	18.2%	19.9%
50歳代	227	276	21.1%	31.0%
60歳代以上	314	216	29.2%	24.2%
不明・無回答	27	6	2.5%	0.7%
N (% [^] -ス)	1,075	891	100.0%	100.0%

問3 あなたが住んでいる地域

	前回件数	今回件数	(前回)%	(今回)%
佐屋地区	389	322	36.2%	36.1%
立田地区	149	117	13.9%	13.1%
八開地区	154	115	14.3%	12.9%
佐織地区	345	319	32.1%	35.8%
その他(地区名が分からない)	14	14	1.3%	1.6%
不明・無回答	24	4	2.2%	0.4%
N (% [^] -ス)	1,075	891	100.0%	100.0%

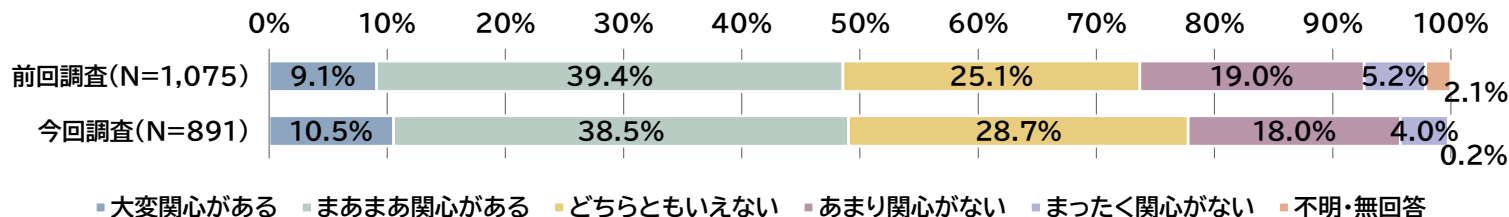
市民の愛西市に対する関心や居住意向等

※前回調査(令和3年)との比較

【18歳以上市民アンケートより】

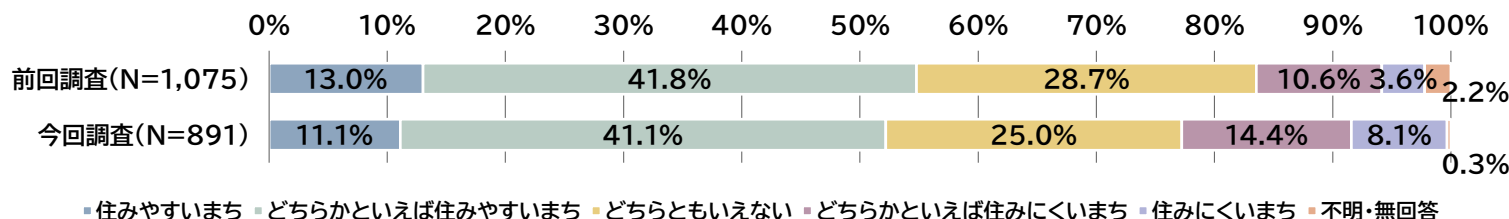
① 市政への関心

「市政に関心がない」人の割合が、前回から2.2ポイント減少



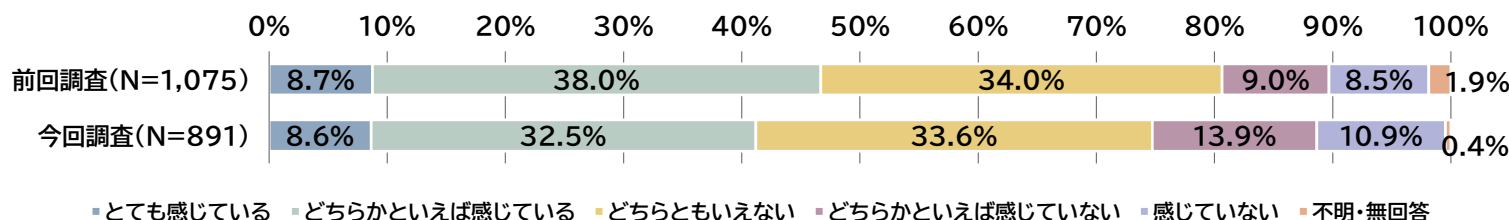
② 住みやすさ

「住みやすい」と感じる人の割合が、前回から2.6ポイント減少



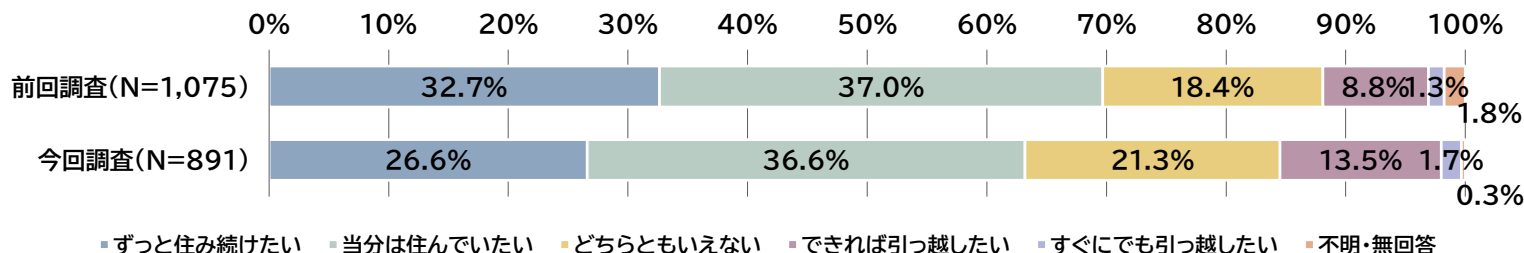
③ 誇りや愛着

「誇りや愛着」を感じている人の割合が、前回から5.6ポイント減少



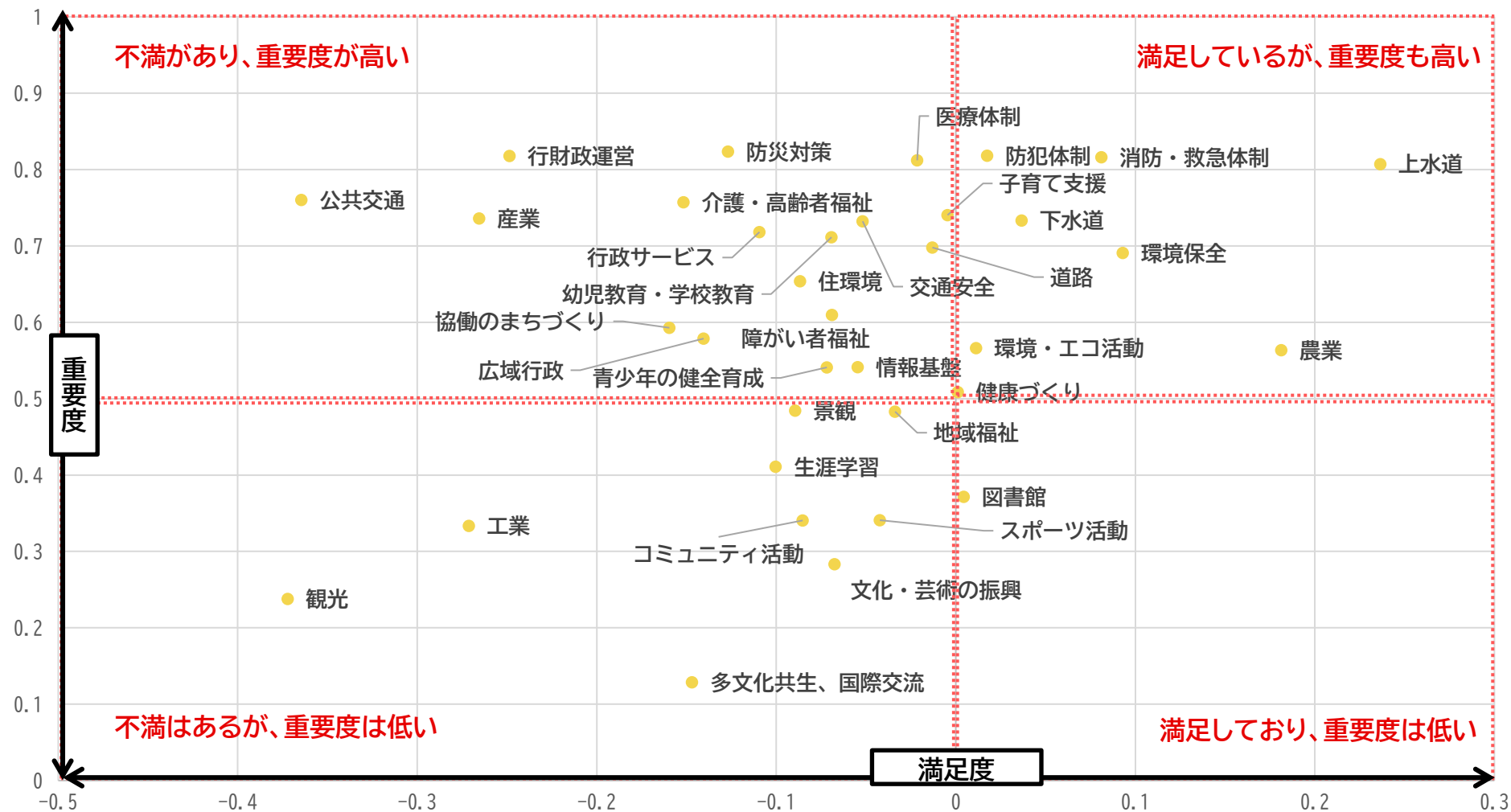
④ 今後の居住意向

「住んでいたい」と感じている人の割合が、前回から6.5ポイント減少



市の主な施策の「満足度」「重要度」について

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】



① 満足度 = $1.0 \times [\text{とても満足の割合}] + 0.5 \times [\text{まあ満足の割合}] + 0.0 \times [\text{普通の割合}] - 0.5 \times [\text{やや不満の割合}] - 1.0 \times [\text{とても不満の割合}]$

② 重要度 = $1.0 \times [\text{とても重要な割合}] + 0.5 \times [\text{まあ重要な割合}] - 0.5 \times [\text{あまり重要でないの割合}] - 1.0 \times [\text{重要でないの割合}]$

「満足度」の順位変動

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

① 満足度 = $1.0 \times [\text{とても満足の割合}] + 0.5 \times [\text{まあ満足の割合}] + 0.0 \times [\text{普通の割合}] - 0.5 \times [\text{やや不満の割合}] - 1.0 \times [\text{とても不満の割合}]$

R3調査

順位	分野	満足度
1位	上水道	28.0%
2位	農業	24.3%
3位	消防・救急体制	12.4%
4位	環境保全	10.5%
5位	下水道	7.2%
6位	防犯体制	3.4%
7位	道路	3.0%
8位	環境・エコ活動	2.9%
9位	医療体制	2.1%
10位	子育て支援	1.0%
11位	健康づくり	-0.5%
12位	図書館	-1.6%
13位	地域福祉	-2.1%
14位	幼児教育・学校教育	-2.4%
15位	防災対策	-4.7%
16位	交通安全	-5.8%
17位	障がい者福祉	-6.2%
18位	文化・芸術の振興	-6.2%
19位	コミュニティ活動	-6.7%
20位	住環境	-7.0%
21位	青少年の健全育成	-7.2%
22位	景観	-7.6%
23位	スポーツ活動	-8.2%
24位	介護・高齢者福祉	-8.6%
25位	情報基盤	-9.9%
26位	行政サービス	-11.0%
27位	広域行政	-11.8%
28位	生涯学習	-13.0%
29位	多文化共生、国際交流	-15.3%
30位	協働のまちづくり	-15.4%
31位	行財政運営	-19.7%
32位	産業	-20.4%
33位	工業	-24.2%
34位	観光	-30.6%
35位	公共交通	-32.4%

3つ以上の順位変動があったもの

R6調査

順位	分野	満足度
1位	上水道	24.1%
2位	農業	18.3%
3位	環境保全	9.5%
4位	消防・救急体制	8.1%
5位	下水道	4.1%
6位	防犯体制	1.7%
7位	環境・エコ活動	1.2%
8位	図書館	0.4%
9位	健康づくり	0.2%
10位	子育て支援	-0.3%
11位	道路	-1.1%
12位	医療体制	-1.9%
13位	地域福祉	-3.2%
14位	スポーツ活動	-4.3%
15位	交通安全	-5.2%
16位	情報基盤	-5.3%
17位	文化・芸術の振興	-6.7%
18位	障がい者福祉	-6.8%
19位	幼児教育・学校教育	-7.0%
20位	青少年の健全育成	-7.2%
21位	コミュニティ活動	-8.4%
22位	住環境	-8.6%
23位	景観	-8.8%
24位	生涯学習	-10.1%
25位	行政サービス	-11.0%
26位	防災対策	-12.9%
27位	広域行政	-14.1%
28位	多文化共生、国際交流	-14.6%
29位	介護・高齢者福祉	-15.0%
30位	協働のまちづくり	-16.0%
31位	行財政運営	-25.0%
32位	産業	-26.4%
33位	工業	-27.2%
34位	公共交通	-36.4%
35位	観光	-37.3%

「重要度」の順位変動

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

② 重要度 = $1.0 \times [\text{とても重要な割合}] + 0.5 \times [\text{まあ重要な割合}] - 0.5 \times [\text{あまり重要でないの割合}] - 1.0 \times [\text{重要でないの割合}]$

R3調査

順位	分野	重要度
1位	医療体制	81.8%
2位	防犯体制	80.7%
3位	行財政運営	80.2%
4位	上水道	79.4%
5位	消防・救急体制	79.0%
6位	防災対策	78.7%
7位	介護・高齢者福祉	78.2%
8位	子育て支援	75.9%
9位	下水道	73.5%
10位	交通安全	72.7%
11位	公共交通	72.3%
12位	幼児教育・学校教育	71.9%
13位	行政サービス	70.5%
14位	産業	68.9%
15位	環境保全	66.0%
16位	道路	65.5%
17位	障がい者福祉	60.6%
18位	協働のまちづくり	60.5%
19位	広域行政	60.0%
20位	環境・エコ活動	60.0%
21位	住環境	59.9%
22位	青少年の健全育成	57.7%
23位	情報基盤	53.1%
24位	地域福祉	50.7%
25位	健康づくり	50.7%
26位	農業	50.7%
27位	景観	49.9%
28位	生涯学習	43.6%
29位	図書館	41.0%
30位	スポーツ活動	37.3%
31位	コミュニティ活動	32.6%
32位	文化・芸術の振興	30.1%
33位	工業	28.3%
34位	観光	20.7%
35位	多文化共生、国際交流	16.6%

3つ以上の順位変動があったもの

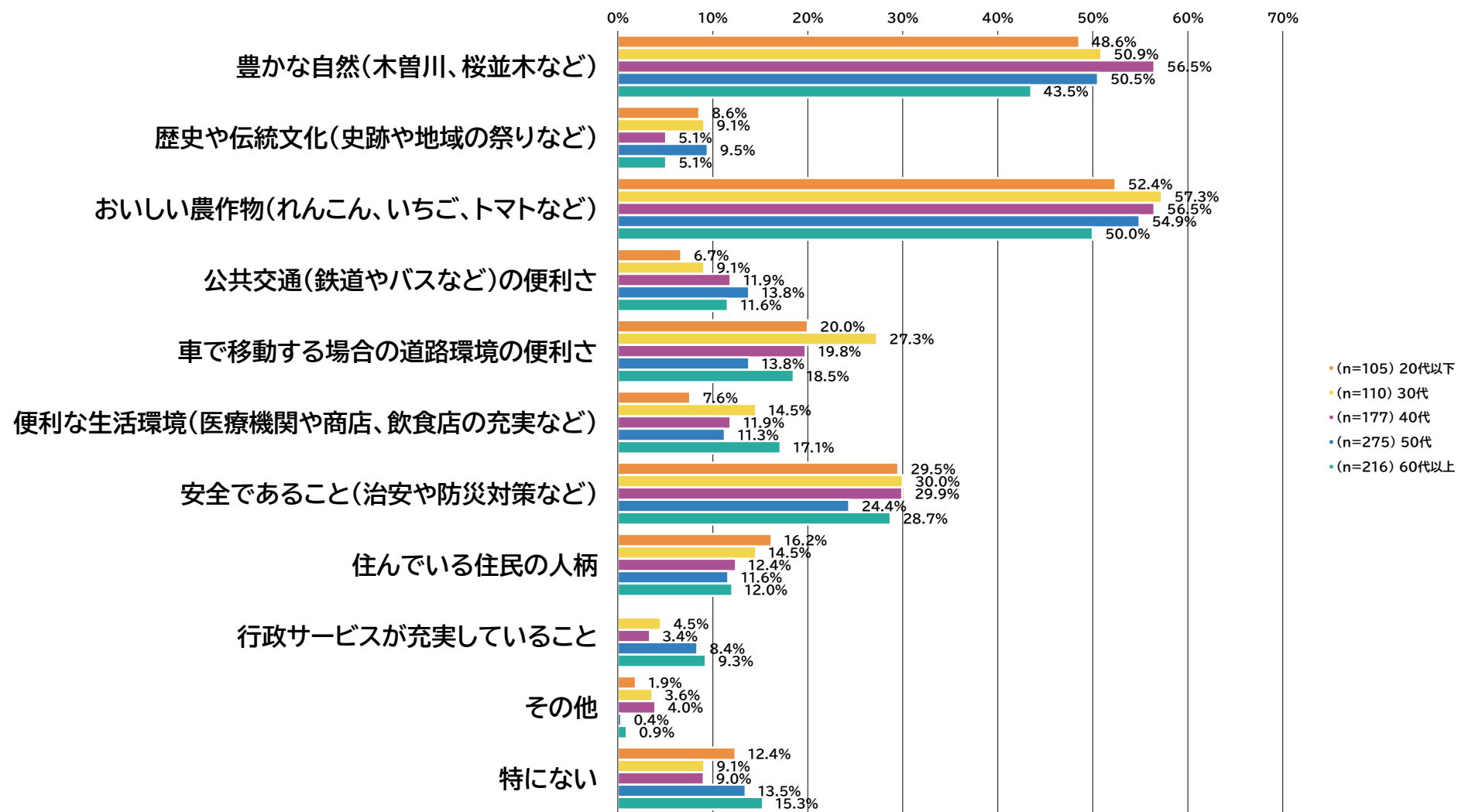
R6調査

順位	分野	重要度
1位	防災対策	82.6%
2位	防犯体制	82.0%
3位	消防・救急体制	81.9%
4位	行財政運営	81.7%
5位	医療体制	81.3%
6位	上水道	80.9%
7位	公共交通	76.2%
8位	介護・高齢者福祉	75.7%
9位	子育て支援	74.3%
10位	産業	73.6%
11位	下水道	73.5%
12位	交通安全	73.4%
13位	行政サービス	71.9%
14位	幼児教育・学校教育	71.4%
15位	道路	69.8%
16位	環境保全	69.4%
17位	住環境	65.6%
18位	障がい者福祉	61.1%
19位	協働のまちづくり	59.4%
20位	広域行政	58.1%
21位	環境・エコ活動	56.9%
22位	農業	56.5%
23位	情報基盤	54.3%
24位	青少年の健全育成	54.3%
25位	健康づくり	50.9%
26位	景観	48.9%
27位	地域福祉	48.2%
28位	生涯学習	41.3%
29位	図書館	37.3%
30位	スポーツ活動	34.3%
31位	コミュニティ活動	34.2%
32位	工業	33.2%
33位	文化・芸術の振興	28.6%
34位	観光	23.8%
35位	多文化共生、国際交流	13.1%

愛西市の魅力(①年代別)

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

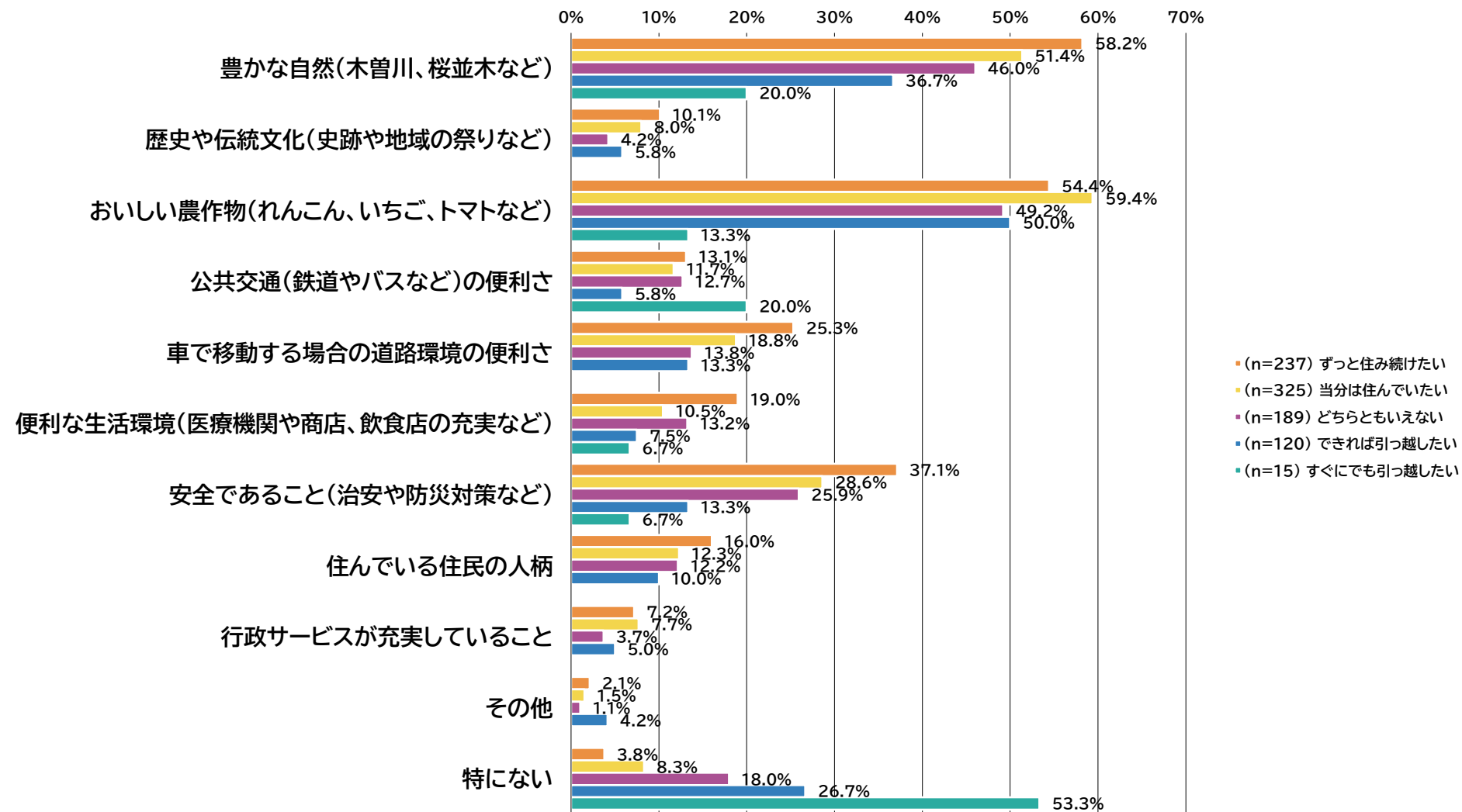
■ 愛西市の魅力として、どの年代も「豊かな自然」と「おいしい農作物」を回答する割合が高い



愛西市の魅力(②居住意向別)

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

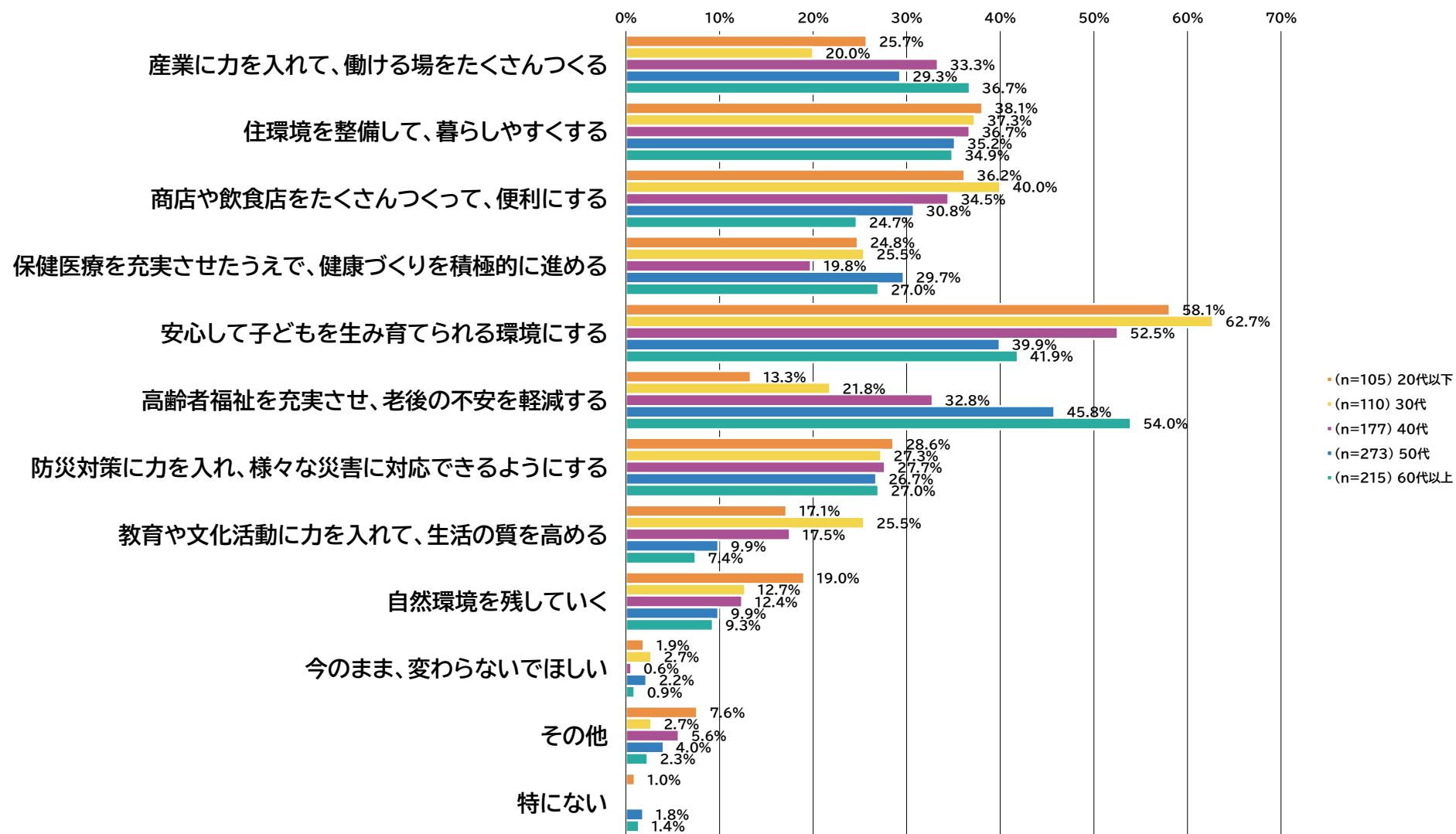
■ 愛西市への居住意向が高い人ほど、愛西市の魅力を理解している(愛西市に何等か魅力を感じている)



愛西市の進むべき方向性(①年代別)

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

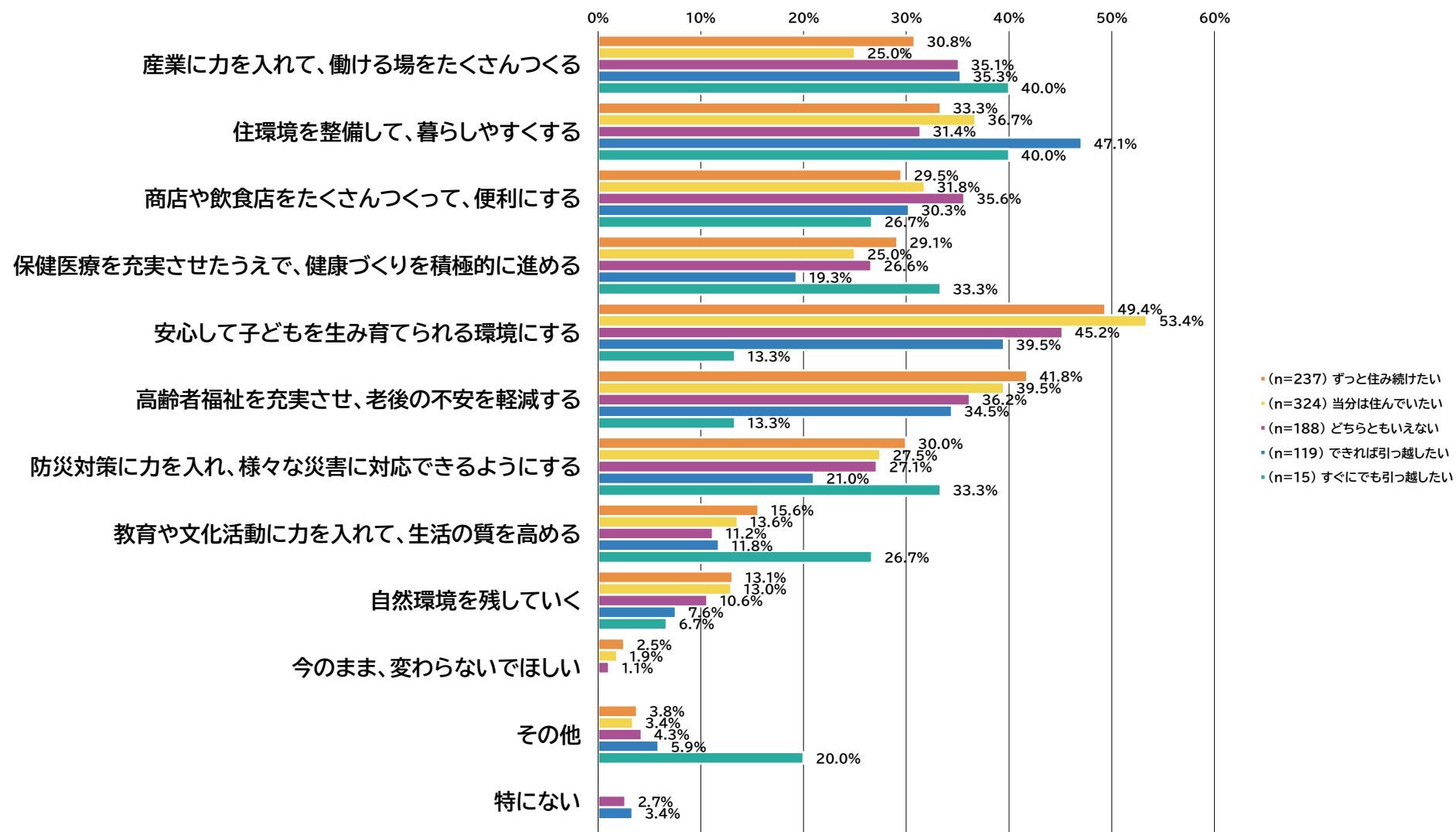
■ 40代以下は「安心して子育てできる環境づくり」、50代以上は「高齢者福祉の充実」を最も重視している



愛西市の進むべき方向性(②居住意向別)

【18歳以上市民アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

■ 居住意向の低い人は、高い人に比べて、「住環境の整備」や「働ける場」を求めている割合が高い

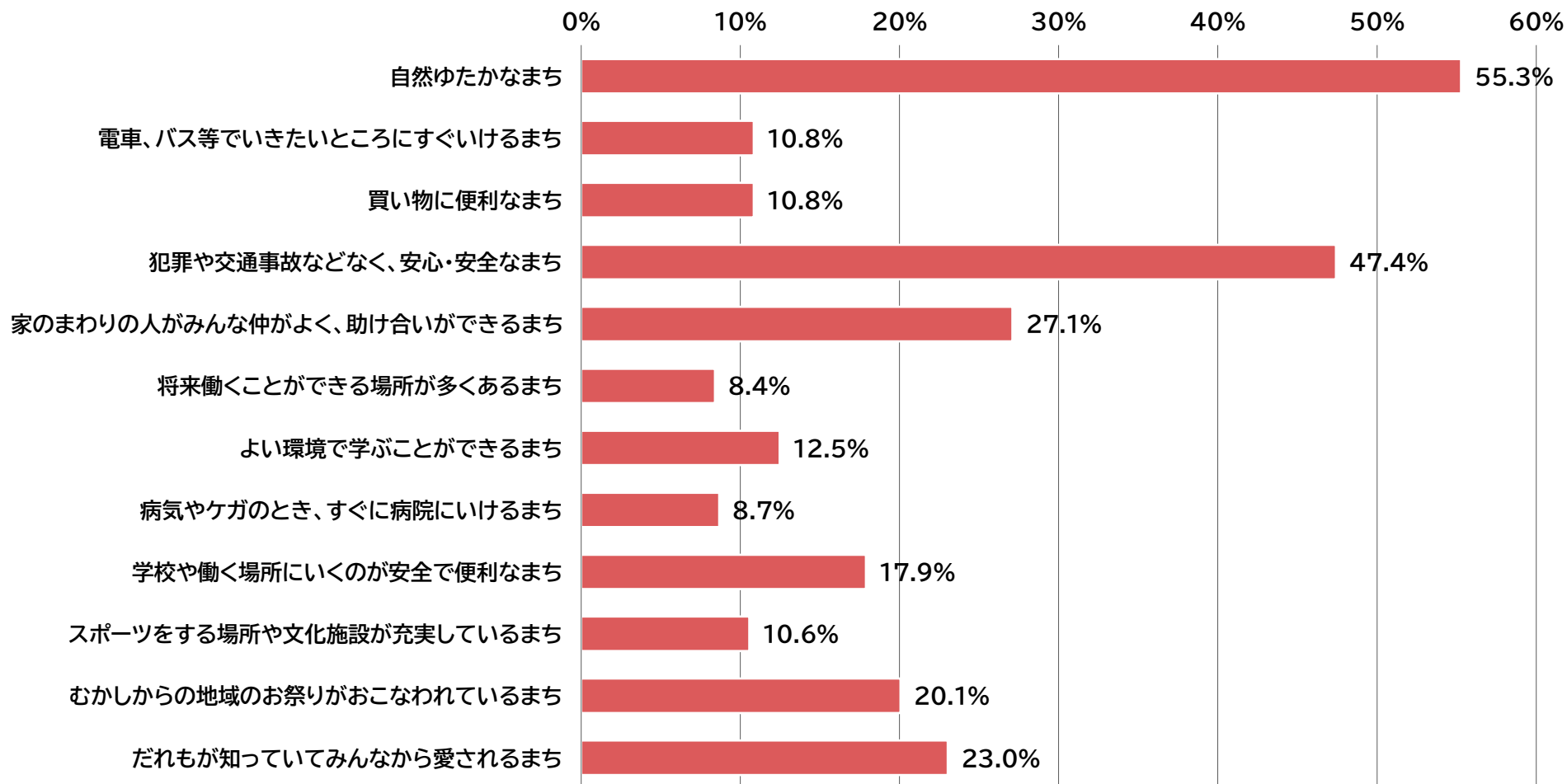


(小学生)大人になったとき、愛西市がどんなまちになっているといいか

【小学生アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

■ 小学生の将来ニーズとして、「自然ゆたかなまち」と「安心・安全なまち」を重要視する生徒が多い

(n=369)

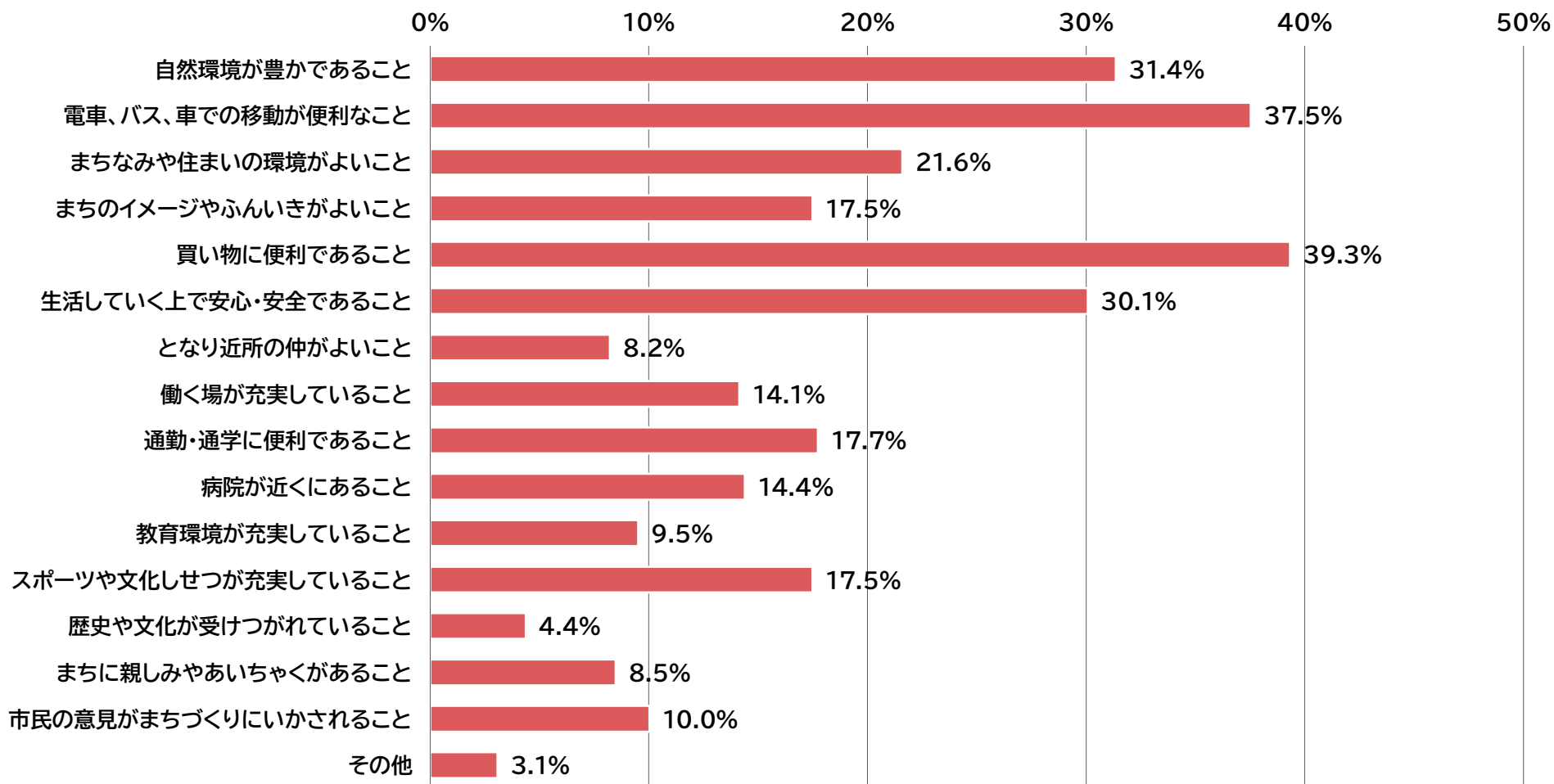


(中学生)大人になっても愛西市で住み続けていくためには、なにが重要か

【中学生アンケートより ※各選択肢の割合は非回答者を分母から除いて算出】

■ 中学生の将来ニーズとして、「買い物」および「移動」の利便性を重要視する生徒が多い

(n=389)



自由回答欄の分析について

【18歳以上市民アンケートより】

「市」「愛西市」を除くと「子（子ども、子供、子育て等）」に関する意見が最も多く、全体の15.9%

n = 389（自由回答記入者数）

抽出語	件数	割合
市	96	24.7%
愛西市	75	19.3%
子	62	15.9%
人	49	12.6%
多い	47	12.1%
高齢	43	11.1%
地域	42	10.8%
地区	41	10.5%
交通	40	10.3%
良い	38	9.8%
整備	36	9.3%
場所	35	9.0%
道路	35	9.0%

- ✓ 子ども関連では、公園整備、学校設備等の子育て関係施設の整備等、子育て環境に関する意見が多く、子育てしやすいまちづくりが求められている。
- ✓ 「多い」という語に注目すると、道路の危険個所の多さや空き家・空き地・耕作放棄地・古い建物等の多さ（管理の必要性）に関する意見が多く、「整備」という語に注目すると、道路・駅周辺・公園整備に関する意見が多いことから、安全・安心なまちづくりの観点で都市基盤整備や土地・建物の適切な管理が求められている。
- ✓ 「高齢」というキーワードに注目すると、公共交通や交通機関といった「交通」に関する意見にも関連し、高齢者が暮らしやすい（車が無くても暮らせる）まちづくりに関する意見が多い。また、安心・安全なまちづくりの観点から、高齢者の免許返納など高齢者ドライバーをできる限り減らすための施策も求められている。

※ 上記の抽出語は、動詞をはじめ一部の品詞を除いて掲載

※ 件数は、該当の語を自由回答欄内に記入した人の数

特に市民の声が多かったキーワード(単語)と意見①

【18歳以上市民アンケートより】

「多い」というキーワードに注目すると、道路の危険箇所や空き家・空き地等の管理に関する意見が多い

道路の危険について

街路灯が少なく 夜暗くて危ない箇所が多い

道路に草木が倒れこんでいたり、交差点の角地が売地や管理されていない土地が雑草で左右確認しにくい箇所が多くある。危険と感ずる場所の記録をとり、定期的に管理していく仕組みを構築してほしい

道が狭いところも多い、歩道もない

駅周辺の交通量が多いのに
周辺の道路が狭い

お年寄りや子ども、人がよく渡るが横断歩道や信号がない所が多い

道が狭く電信棒などやたらと出ていて危なく感ずる場所が多い。

幅狭くなる細い住宅道路が多い地区に標識を増設してほしい。
観光バスや大型トラックがナビで誤進入している場面に結構出くわす。

●●が
多い

高齢者について

高齢の世帯が圧倒的に多い

高齢者が多い中、交通機関がなく、
市の巡回バスもバス停まで遠い。利用しにくい
(八開地区)

年寄りの運転が多過ぎて、本当にこわい

高齢者が多く、10年後の地区が心配
(八開地区)

自治会について

自治会の行事が多過ぎてやめたい。

町内会から離脱希望が多い、
市から町内会への丸投げが多くないか

市民の意見のききとり
をもっと多くすべき

空き家・空き地・建物について

子どもなども多く通学路になっている道路
にスピード制限を設けて欲しい

不法投棄や農地へのゴミのポイ捨てが多い

道の駅あいさいの駐車場で
日常的に寝泊まりしている車が多い事が不安

古い建物が多いので人が住んでいない家や閉店した
建物は取り壊しやすくして土地を再活用していきたい。

空き家・空き地が多い。管理している方がいればいいが、
朽ちている家や雑草だらけの土地は火災の面で不安。

空き家が多く、防犯や雑草・ノラ猫、
台風や大雨の時にカワラなどが落ちてこないか、など不安を感じる

雑草だらけの耕作放棄地が多い

公園が古いところが多い

駅近くに田んぼも多いので、
日比野駅みたいに住宅を建て
ると町に人々が増えると思う

施設が多い気がする、体育館
しか利用しないが、佐織、立田、
親水3つもある、いるのか？

近所にノラ猫が多く、イタズラ
されて困っている

特に市民の声が多かったキーワード(単語)と意見②

【18歳以上市民アンケートより】

「高齢」というキーワードに注目すると、車がなくても暮らせるまちづくりや人口増加策に関する意見が多い

高齢者が暮らしやすいまちづくり
(車がなくても暮らせる)

医療体制について、近隣の市町村に頼りすぎている
海南病院や津島市民病院は、交通手段のない高齢者が通院するには遠い

高齢者でも移動・交通網・買い物・医療等、心配の無いまちづくり

高齢者にとっては大変暮らしにくい地域。
交通機関、商業施設、高齢者施設、防災、災害時の避難所等の充実

自分も車に乗れなくなった時に、買い物、通院も出来るか心配で
高齢になってもすみ続けたいと思えない。老後に不安しか無い

高齢化が進むなか、公共交通機関をもっと充実させて安心できる街

高齢化して老後に不安を抱えながら日々生活。タクシーも容易に
利用出来ず、行政サービスはおろか日常の買い物にも支障をさ
たす近い将来に怯えている。市の巡回バスは大変有り難い。

高齢者ドライバーがすみやかに免許返納
できるように、外出等の移動手段の充実

高齢になった時に車がなくても暮らせる
ようなまちづくり

他市のように1回100～200円など無料でなくてよいので乗りつきなど含め
高齢者の免許返納対策を市として行ってほしい

交通

高齢

農業従事者の高齢化による影響

農業従事者が高齢化

農業従事者がいない、または高齢化して雑草処理できない。
空いている農地を何とかしてほしい、農地を処分できない

高齢化が進んで手付かずの畑が沢山ある。人口が増えない町はどんどん
住みにくなる。他の土地の方も住めるようになれば良いと思う。

人口増となるまちづくり

消防団員もなり手がなくて、高齢化

立田地区で住みたかったが市街化調整区域で家を建てられない。立田、
八開地区では少子高齢化が目に見えて進行している。住むにはとても
環境が良い場所なので、もっと人が住めるように進めて欲しい。

近所はご高齢の世帯が圧倒的に多い 少子高齢化人口減少を逆転させなければ
前述のビジョンもいずれ先細りになるので、人口増加となる政策を願います

高齢者への配慮はとても必要だが、
今後市を支える子育て世代に魅力あるまちづくりが必要

高齢ドライバーの車の運転が危ない

高齢化に伴い、広報の個別配達や回覧板をなくして別の方法での伝達などお願いしたい

近所が高齢者ばかりで今後空き家になった時に安全面が心配

特に市民の声が多かったキーワード(単語)と意見③

【18歳以上市民アンケートより】

「整備」というキーワードに注目すると、道路・駅周辺・公園整備に関する意見が多いほか、学校設備を含め子供たちの安心できる環境の整備が求められている

道路・駅周辺整備

自転車と車道路環境にの変化にあった車も安心して運転できる道路整備

道路整備に注力。特に道路の区画線など視認しやすいよう塗り直しなど。

生活道路の整備

永和駅周辺の道路の整備

日比野駅前の整備と道路幅の拡張

日比野駅、佐屋駅の整備

佐屋駅周辺の整備

整備

公園整備

公園を整備して、大人から小さい子供まで遊べる所を増やしてほしい。(トランポリンetc)

小さな子供が遊べる、公園などの整備

日常的に利用できるアクティビティを充実してほしい(サイクリングロードやウォーキングロード、公園の整備、観光マップの整備、給水所や駐輪場の設置)

ウォーキングコースを整備。
公園内で運動できたり、ピクニックできると楽しい生活が送れそう

市民の手植による桜並木の整備

大震災が起きた場合の避難所整備(テントや段ボールベッドなど)

名古屋へのベッドタウンとしての住宅環境の整備(特に空き家対策)を急ぎ、若い世代が住みやすい環境を整備

子供たちのための環境整備

学校が古すぎて、水道から茶色の水が出たり、プールのシャワーが壊れている。
子供が安心して通える学校の整備

まだまだ子育てをする環境が整っていない。
子供が遊ぶ場所がない。夏など外で遊べない時の遊べる場所がほしい。

自然は残しつつ子供たちが住みやすい市

古い住居の整備が不十分で空家などが散見される。
子供の遊ぶ環境が整っていない。

子供

もっと子供が増えるように、若い世代が住みたいと思う町にすべき。交通が不便なのと、宅地が少ないため、もっと宅地を増やし、大きい商業施設ができるとよい。
名古屋市から引っ越してきたので、まだまだ不便に感じてしまう。
夜は星がキレイでよい！

小・中学校の設備をよくしてあげたい。子供たちの環境がよければ将来、大人になった時、また愛西市で子供を育てていきたいと思う

子どもが遊びながら学べる室内施設を作してほしい

子ども(小学生)がのびのび遊べる広い公園を勝幡もしくは佐織地区に作してほしい。

交流人口・関係人口アンケート

愛西市に来た人はどこに行っているか、何を体験しているか

【全国にお住まいの、過去10年以内に愛西市に来た人、800人を対象にアンケート調査】

- 観光などで愛西市に来た人の31.0%が農産物販売施設(道の駅、産直施設など)を訪れている。
- 同じく、25.5%が国営木曽三川公園を訪れており、24.0%が道の駅「立田ふれあいの里」を訪れている。
- ただし、愛西市に来ても行った場所や体験したことが「特になし」人も25.1%でした。

	愛西市内で実際に行った場所や体験したことランキング	割合(%) n=764
1	農産物販売施設（道の駅、産直施設など）	31.0
2	国営木曽三川公園	25.5
3	特になし	25.1
4	道の駅「立田ふれあいの里」	24.0
5	農産物販売施設（スーパー、民間商業施設など）	14.5
6	レンコンを使った料理	13.6
7	レンコン	13.1
8	尾張津島天王祭（朝祭）	9.3
9	日置八幡社	9.0
10	いちご	8.9
11	木曽川観光船	8.8
12	「ぐるぐる農産物」のラベルが貼られた農産物	7.9
13	大野城址	7.6
14	レンコンを使った菓子	7.1
15	バーベキュー（国営木曽三川公園・東海広場）	6.9
16	森川花はす田	6.5
17	勝幡城	6.4
18	船頭平閘門	5.4
19	トマト	5.2
20	釣り（木曽川など）	4.8

愛西市の地域資源



愛西市の地域資源の“魅力度”について

【全国にお住まいの、過去10年以内に愛西市に来た人、800人を対象にアンケート調査】

■ 愛西市の地域資源の魅力度は、1位「農作物」、2位「グルメ・特産品」、3位「自然・環境資源」

「魅力度」:魅力があると感じている人の割合(%)の大きさ



愛西市との関わり方について

【全国にお住まいの、過去10年以内に愛西市にきた人、800人を対象にアンケート調査】

- 現在の関わり方は「趣味・消費活動」が最も多い。(回答者の14.5%) 次いで、「友人・知人との交流」が多い。(回答者の11.3%)
- 今後の関わり方として、「イベント等の参加」や「用務での来訪」の意向・可能性の増加率が高い。

	現在の関わり方			今後の関わり方 (希望)		増減率
	n	%		n	%	
全体	800	100.0		800	100.0	
愛西市の地域づくり（まちおこし等）の企画への参加	64	8.0	→	67	8.4	0.4%
愛西市のボランティアや地域保全活動への参加	42	5.3	→	67	8.4	3.1%
空き店舗有効活用の活動や朝市・マルシェ等の出店活動への参加	65	8.1	→	67	8.4	0.3%
イベント等地域交流（祭りや地域体験プログラム等）の参加	63	7.9	→	101	12.6	4.8%
愛西市内または周辺地域で暮らす友人・知人との交流	90	11.3	→	79	9.9	-1.4%
趣味・消費活動でよく訪れる	116	14.5	→	144	18.0	3.5%
自己の用務でよく訪れる	70	8.8	→	107	13.4	4.6%
地域内産業活動の参加（現地就労）	40	5.0	→	48	6.0	1.0%
地域外産業活動の参加（テレワーク／副業）	26	3.3	→	39	4.9	1.6%
ふるさと納税によって、愛西市を継続的に応援している	40	5.0	→	56	7.0	2.0%
クラウドファンディングによって、愛西市を継続的に応援している	18	2.3	→	23	2.9	0.6%
オンラインで地場産品等を購入することにより、愛西市を定期的・継続的に応援している	36	4.5	→	41	5.1	0.6%
リモート（遠隔）で愛西市に関する仕事を請け負っている	21	2.6	→	26	3.3	0.6%
SNS等で愛西市の情報発信を行っている	21	2.6	→	20	2.5	-0.1%
オンライン（Zoom、Slack等）を活用して、愛西市と定期的または継続的に関わっている	14	1.8	→	23	2.9	1.1%
その他 上記以外にあれば：	15	1.9	→	8	1.0	-0.9%
現在、愛西市と関わっていない	463	57.9				

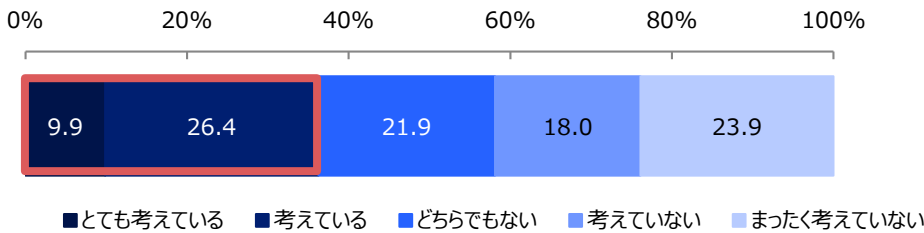
愛西市への移住可能性

【全国にお住まいの、過去10年以内に愛西市にきた人、800人を対象にアンケート調査】

■ 今後または将来的な移住等の意向がある人の57.9%(168/290)が愛西市を移住先の候補になると回答

①今後または将来、移住(Iターン)や転居(Uターン、Jターン)、あるいは二地域居住を考えていますか。

※Iターン:出身地とは別の場所に居住、Uターン:出身地に戻って居住、Jターン:出身地の近くに戻って居住、二地域居住:都会と田舎など2ヶ所に住まいを持ち、週末は田舎で過ごすなどといったライフスタイル。



②万が一、移住をしなければならない状況に置かれた場合、愛西市は移住先の候補になりますか。

	n	とても候補になる	やや候補になる	どちらでもない	あまり候補にならない	候補にならない
全体	800	49 6.1%	177 22.1%	188 23.5%	177 22.1%	209 26.1%
①	とても考えている	33 41.8%	25 31.6%	8 10.1%	7 8.9%	6 7.6%
	考えている	10 4.7%	100 47.4%	38 18.0%	44 20.9%	19 9.0%
	どちらでもない	3 1.7%	25 14.3%	71 40.6%	43 24.6%	33 18.9%
	考えていない	1 0.7%	20 13.9%	34 23.6%	45 31.3%	44 30.6%
	まったく考えていない	2 1.0%	7 3.7%	37 19.4%	38 19.9%	107 56.0%

ワークショップ

第1回ワークショップ(高校生、市民)の結果概要

高校生WS、市民WSの第1回を実施。それぞれのWSで10年後の愛西市のありたい姿を作成。

次回以降は、ありたい姿を実現するためのまちづくり目標やプロジェクト等を作成予定。

高校生が考える 愛西市の魅力

第1の魅力

モノ

- 食べ物 レンコンチップスなど
- 農業

シゴト

- 農業 地産地消（レンコン、イチゴ、いちじく、かき）

第2の魅力

ヒト

- 人の優しさ（あいさつ、助け合い、学校に文化教えてくれる）

クウキ

- 人と関わりやすい
- 自然 山、川、夕焼け

第3の魅力

コト

- 行事多い（お祭りが多く、観光者 へ）

トコロ

- 木曽三川公園

ミライ

- 公共交通機関の利便性を高めてほしい

市民が考える 愛西市の魅力

第1の魅力

モノ

- 農産業
- 農作物 農業技術を提供できる

トコロ

- 移動しやすく住みやすい

ヒト

- 人と場所

第2の魅力

モノ

- 農作物
- 美味しいレンコン

コト

- 人の良さ 住みやすさ

トコロ

- 便利な立地

第3の魅力

クウキ

- 地平線が見える
- 空気がおいしい
- 自然
- 環境が良い

第1回ワークショップ(高校生、市民)の結果概要

高校生WS、市民WSの第1回を実施。それぞれのWSで10年後の愛西市のありたい姿を作成。

次回以降は、ありたい姿を実現するためのまちづくり目標やプロジェクト等を作成予定。

高校生が考える愛西市のありたい姿

愛西市に映えを!! 写真映えする食べ物を作ろう

- レンコンハンバーガー、
- レンコンチップス ハニーバター味
- ヤンニョムレンコン串
- レンコンソフト

子育て強化で住みやすい市へ

- 補助金、援助金をだして、将来における少子化対策
- 有名な農業の後継ぎを残し、自然を残しつつ発展
- 保育園・小中学校の改装、教育強化、遊び場所を確保
- SNSを利用、農業だけでなく、商業などの発展を視野
- アクティビティを増やして子どもの興味を引く

地下鉄佐屋駅開業!!

- 地下鉄桜通線佐屋駅まで延伸
- 念願の名鉄津島尾西線と名古屋市営地下鉄桜通線が相互直通運転を実施!!

市民が考える愛西市のありたい姿

リ・スキリングのロールモデル街

- 住みやすいハブ施設
(カフェ、誰もがつどえる場所、医療機関と児童施設提携)
- 就農体験
(年齢制限無し、シニア歓迎、副業OK、農業スキルを持ったシニアが教える、移住支援)

愛西市 こんなにあるぞ日本一

カラー、レンコン、船頭平閘門ウォーキングラリー

様々な世代が住みたくなるまちへ

愛西市が愛知県で全世代において人口増加率No.1

- 幼稚園から大学までエスカレーター式の学校設立
- 勝幡駅・藤浪駅・日比野駅・佐屋駅周辺を
リニア開業を見据えて大規模都市開発

2.基礎調査、アンケート、ワークショップ

2.4 近年の愛西市を取り巻く社会潮流

報告事項

2.4 近年の愛西市を取り巻く社会潮流

国・県・他自治体等の動向をもとに新たな総合計画策定の前提となる社会潮流を整理

■ 地域の持続性、安全・安心を脅かすリスクの高まり

- ①未曾有の人口減少、少子高齢化
- ②巨大災害リスクの切迫
- ③気候危機の深刻化、生物多様性の損失

■ コロナ禍を経た地域社会の構造的変化

- ④テレワークの進展、新たな地方・田園回帰の動き
- ⑤デジタル田園都市国家構想等の推進

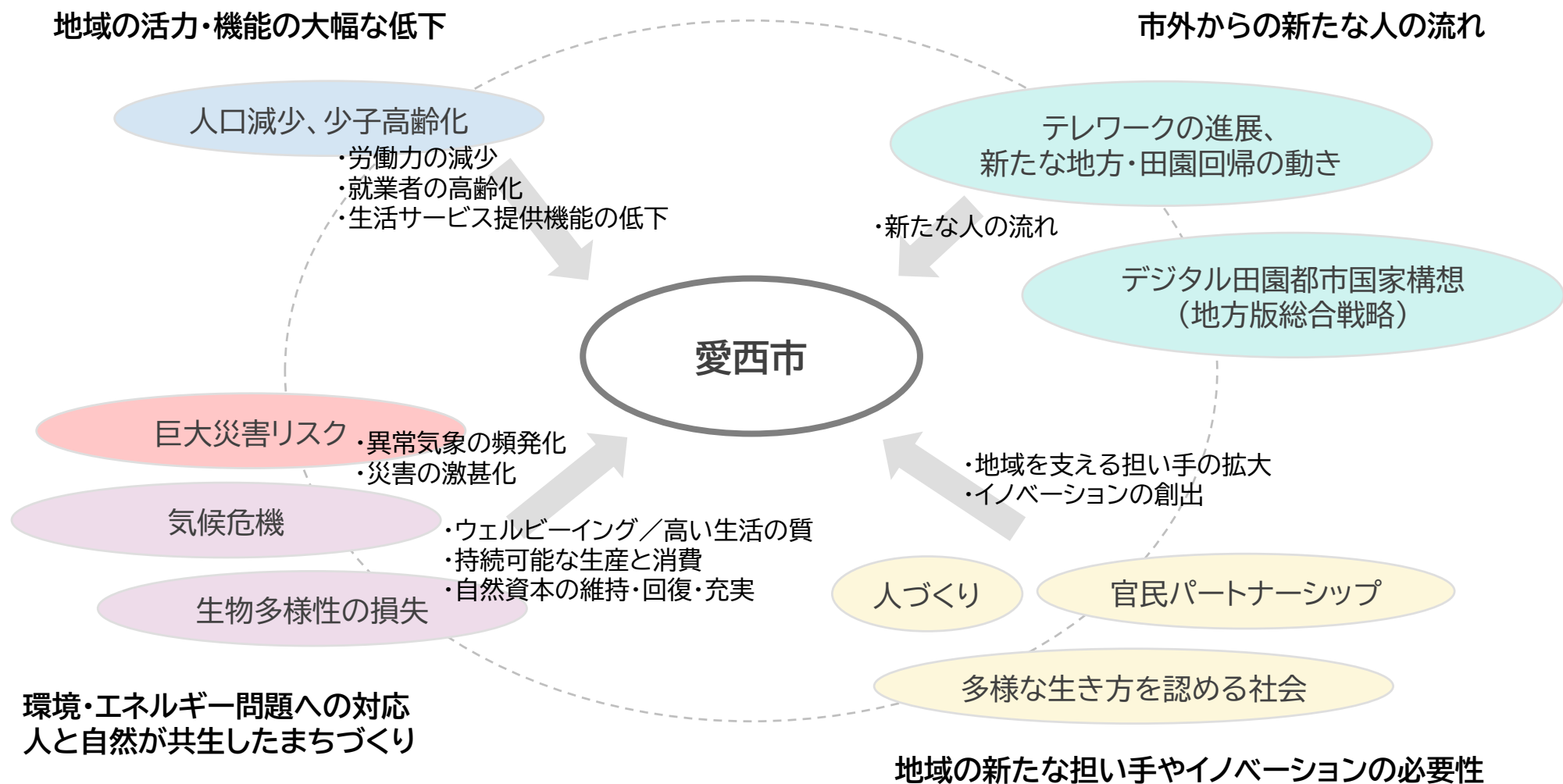
■ 持続可能な社会の実現に向けた取組

- ⑥人づくりの重要性の高まり
- ⑦多様な生き方を認める社会への変化
- ⑧民の力の最大限活用、官民パートナーシップによる地域経営主体の創出・拡大

報告事項

2.4 近年の愛西市を取り巻く社会潮流

人と自然の両面において地域を脅かすリスクと転換点となり得る新たな機会が生じている



3. 計画策定の方針

審議事項

3.計画策定の方針

第1回以降の検討を踏まえ、計画策定の方針を下記のとおり設定します

(1) 検証及び分析結果を根拠とする計画づくり

これまでの総合計画・総合戦略・行政改革大綱に基づいた取組等の十分な検証・分析から本市の状況を再認識し、施策等の評価結果をもとに成果を得るために何をすべきか考え、市が一丸となって持続可能な地域づくりに取り組む計画にします。

(2) 戦略性が高く、実効性のある計画づくり

重点的に取り組む課題を共有し、優先順位を明確にするとともに、それらが将来にどのような結果をもたらすかを適正な成果指標をもとに考え、戦略性と実効性を持った計画の策定に努めます。

(3) 少子高齢化社会や経済情勢に対応できる計画づくり

人口減少・少子高齢化が避けられない中、短期的な対応ではなく、社会経済情勢に応じた効率的で持続可能な市民サービスの提供を目指します。

(4) 地域の魅力を共有できる計画づくり

本市のまちづくりに関わるすべての人が愛着と誇りを持って成長・発展していけるよう、まちづくりに関する意識の醸成、担い手づくり、情報発信に一丸となって取り組む計画にします。

(5) 市民等からの多様な意見を反映した、わかりやすい計画づくり

市民が主体となったまちづくりを進めるためにも目標や取組が分かりやすい計画を目指します。

(6) 時代の変化に対応した計画づくり

時代に即応した価値観を積極的に取り入れ、市民や企業等と連携し、SDGsの推進をはじめとした、環境、産業、教育、医療、福祉、行政運営などあらゆる分野において時代の変化に対応した考え方を取り入れた計画にします。

4.基本構想について

審議事項

4.基本構想について

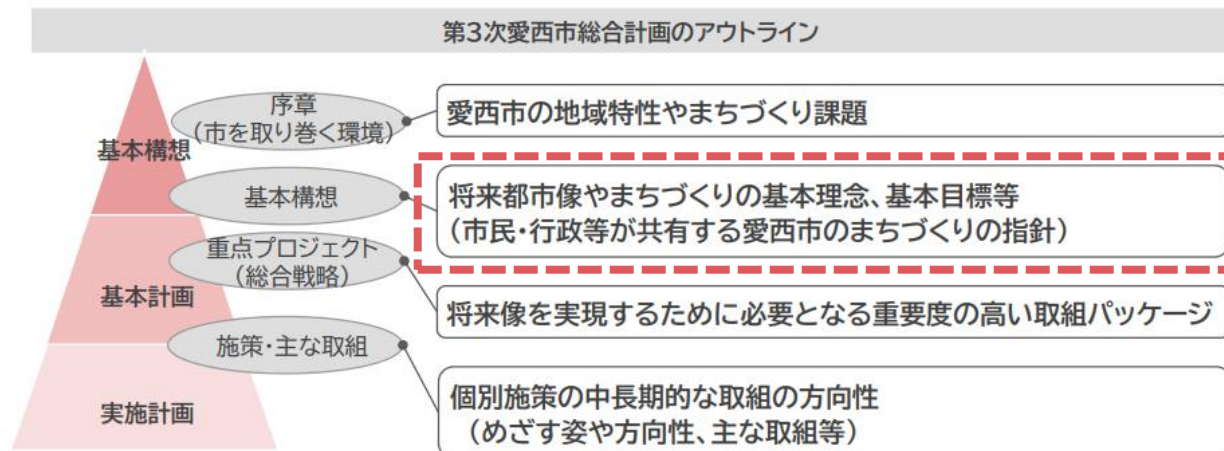
基本構想では、愛西市のまちづくりの指針として将来都市像やまちづくりの基本理念等を定めます。

2. 第3次総合計画策定方針

2.3 計画の構成、期間

■「基本構想」「基本計画」「実施計画」により構成

- 「基本構想」:令和8年度から令和15年度までの8年間
- 「基本計画」:令和8年度から令和15年度までの8年間 ※前半4年間を前期基本計画、後半4年間を後期基本計画とする。
- 「実施計画」:3年間を計画期間とし、毎年度のローリング方式で見直しを行う。



審議事項

4.基本構想について

○第2次総合計画の「将来都市像」

第1章 愛西市でめざすもの

(1) 将来都市像

ひと・自然 愛があふれるまち

豊かな農産物や川、緑などの「自然」と、心のあたたかさや地域の絆などの「ひと」。これらは本市の大きな魅力であり、強みです。私たちの財産である「ひと」と「自然」を誇りに思い、愛し、次世代に伝えていけるよう、そしてまちづくりの過程においてこれらの魅力が市内外に広がって、多くの人に愛される愛西市となっていくよう、将来都市像を「ひと・自然 愛があふれるまち」とします。

第2次愛西市総合計画より抜粋

=参考=

第1次：人々が和み、心豊かに暮らすまち

第2次：ひと・自然 愛があふれるまち

審議事項

4.基本構想について

○第2次総合計画の「まちづくりの基本理念」

(2) まちづくりの基本理念

本市のまちづくりの根底をなす、基本的な理念として次の3つを掲げます。すべての取組のなかで次の視点を持って施策の展開を図ります。

①協働によるまちづくり

まちの未来を市民と行政とが共有し、適切な役割分担と協働により、地域課題の解決やまちの発展に取り組みます。すべての取組において、「自助・共助・公助の役割分担の明確化」や「市民参加の仕組みづくり」「市民主体の地域づくり」の視点を持って進めます。

②持続可能なまちづくり

人口減少、少子高齢化に的確に対応するとともに、変化する社会経済情勢等に柔軟に対応しながら安定した行財政運営を進め、将来にわたって自立できる、持続可能な発展をめざします。

③絆を大切にするまちづくり

安心して暮らすことができるコミュニティの形成に向けて、人と人がつながり合い、感謝し合い、協力し合える、絆を大切にする地域づくり、人づくりを進めます。

＝参考＝ 第2次愛西市総合計画より抜粋

第1次：①和み ②ゆとり ③安心 ④快適 ⑤便利 ⑥健やか

第2次：①協働によるまちづくり ②持続可能なまちづくり ③絆を大切にするまちづくり

審議事項

4.基本構想について

審議事項 1

○本日の報告事項を踏まえて、今後の愛西市の主要なまちづくり課題は何だと思われますか

審議事項 2

○新たな総合計画のまちづくりの基本理念（すべての施策に共通する考え方）としてどのような内容を位置づけるべきであると思われますか

審議事項 3

○新たな総合計画の将来都市像としてどのような姿を掲げるべきであると思われますか